

令和5年千葉市教育委員会会議
第2回臨時会会議録

千葉市教育委員会

令和5年千葉市教育委員会会議第2回臨時会会議録

日時 令和5年8月1日(火)

午前10時00分開会

午後5時45分閉会

場所 正 庁

出席委員	教 育 長	鶴岡 克彦
	委 員	小西 朱見
	委 員	竹田 賢
	委 員	高津 乙郎
	委 員	大山 尋美

出席職員	教 育 次 長	秋幡 浩明	教育改革推進課指導主事	小暮 慶
	教 育 総 務 部 長	香取 徹哉	教育改革推進課指導主事	黒木 智志
	学 校 教 育 部 長	川名 正雄	教育改革推進課指導主事	明石 一郎
	総 務 課 長	山田 利雄	教育指導課指導主事	畠山 裕子
	教 育 指 導 課 長	八斗 孝之	教育指導課指導主事	岩田 亮
	千 葉 高 等 学 校 長	中村 孝幸	教育指導課指導主事	渡邊 洋陽
	稲 毛 高 等 学 校 長	工藤 秀昭	教育指導課指導主事	神馬 侑子
	総 務 課 総 括 主 幹	松木 ゆうき	教育指導課指導主事	多田 幸城
	教育指導課統括指導主事	小石 伸一	教育支援課指導主事	浅場 宏子
	教育改革推進課主任指導主事	鳥羽 波峰	保健体育課指導主事	池田 憲二
	教育指導課主任指導主事	大堀 英洋	教育センター指導主事	吉野正紀子
	教育指導課主任指導主事	平澤 典之		

書 記	総務課総務班主査	猪飼 恭平	総務課主任主事	中台陽一郎
-----	----------	-------	---------	-------

- 1 開会
鶴岡教育長より開会を宣言
- 2 会議の成立
過半数の委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
鶴岡教育長より大山委員を指名
- 4 会期の決定
令和5年8月1日（1日間）とすることで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定

6 議事の概要

(1) 議決事項

議案第32号 陳情について

八斗教育指導課長より説明があった後、審議。不採択と議決した。

議案第33号 令和6年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について

中村千葉高等学校長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第34号 令和6年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について

工藤稲毛高等学校長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第35号 令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について

秋幡教育次長及び八斗教育指導課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第36号 令和6年度使用千葉市立小学校用教科用図書の採択について

秋幡教育次長及び八斗教育指導課長より説明があった後、審議。無記名投票の結果、以下のとおり採択することと決定した。

(2) 発言の要旨

議案第32号 陳情について

鶴岡教育長 議決事項に係る審議を行います。

議案第32号「陳情について」ですが、教育委員会組織規則第8条第13号の規定に基づき、採択または不採択を議決すること

となります。教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 今回の教科書採択に関連する陳情書として、2件の提出がありました。うち1件は住所及び氏名の記載がなく、議案としての形式要件を満たしておりませんでした。よって、要件を満たした1件について説明します。

議案第32号の陳情は、小学校の教科書について、次の点を要望しています。「東京書籍の教科書は、社会科の歴史的事象に関する表現や保健、道徳におけるLGBTなどの多様性の記述について、採択に適していない」ということです。

このことについて、見解を申し上げます。

今回の採択の対象となる教科用図書は、いずれも文部科学大臣の検定を合格したものであり、全ての教科用図書が学習指導要領の目標を踏まえたものとして捉えております。その上で、公開された会議の場において、採択権者の責任のもと、内容・構成が充実しており、本市の児童の実態をもとにふさわしい教科用図書が採択されるべきものと考えます。

説明は以上でございます。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

小西委員 まずは、このように、関心を持っていただいたこと、またご意見をお寄せいただいたことに感謝申し上げたいと思います。

事務局からご説明があったとおり、今回の採択対象の教科書は全て文科省の検定を通っておりますし、私たち教育委員も、これまで全教科、全社の教科書をしっかりと読み込んでまいりました。本日この会議でしっかりと議論をして、責任を持って本市にふさわしい教科書を採択していきたいと思っておりますので、今回の陳情については不採択ということによろしいかと思っております。

鶴岡教育長 他にご意見、ご質問等ございませんようですので、採決に移ります。

議案第32号について、その願意を認め、採択することに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手なし)

鶴岡教育長 賛成の委員はおりません。

よって、議案第32号を不採択することと決定します。

議案第33号 令和6年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について

鶴岡教育長 議案第33号「令和6年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について」、千葉高等学校校長、説明をお願いします。

中村千葉高等学校長 議案第33号「令和6年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により議決を求めるものであります。

お手元の資料、令和6年度使用教科用図書選定理由書をご覧ください。

表紙をめくっていただき、とじ込み資料の1ページの千葉高校における令和6年度使用教科用図書の選定方針について、ご説明申し上げます。

最初に、「1 本校生徒の実態と今後の課題」についてです。

本校は、自己の特性を生かせる進路を主体的に選択し、実現する力を育成することを教育目標に掲げ、(1)自己実現に向けた確かな学力の定着、(2)高度な知識を獲得し、それを活用する力を養う、(3)課題に対し問題意識を持ち、自ら考え解決しようとする姿勢を養うことを3つの柱として教育活動を行っております。

特に、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校として、今年度さらに科学技術人材育成重点校の指定を受け、理数教育を中心としたグローバル人材の育成のため、生徒の科学リテラシーの向上と国際性の涵養を目指す取組みを行っております。

課題としては、大学その他研究機関との連携事業を深め、生徒の科学的探究心をさらに向上させること、そして、「受験のための英語指導」ではなく、英語でやり取りする力・発表する力を身につけた「使える英語」の習得を図ることに力を入れて取り組んでいきます。

次に、「2 本校に求められる教科用図書の特色」としまして、普通科では生徒の実態を踏まえたレベルの教科書であることを前提として、(1)基礎・基本から発展的な内容まで広く扱い、興味関心を高める表記があること、(2)SSHのプログラムの実施に必要な専門的・探究的な内容や高大連携を視野に入れた内容等が取り扱われていること。

また、理数科では、普通科の教科用図書の特色を前提とした上で、課題研究や探究活動等の内容が充実していることが挙げられます。

なお、理数科においては、専門学科としての教科書はありませんが、物理や化学など教科によって、科目によっては、普通科に比べ難しい内容の教科書となっております。特に理科では、科学用語の英語表記、参考・発展・探究活動といった大学の内容にも触れる部分があるなど、レベルの高い教科書を使用しております。

また、普通科と同じものを使用している場合、補助教材やプリントを活用し、内容を深めるなどして、理数科としての特色を出せるよう努めております。

以上が、教科用図書の特徴です。

続きまして、「3 教科用図書の選定基準」につきましては、選定する教科用図書の内容が本校生徒一人一人の実態を踏まえ、本校の教育目標及び教科・科目の目標に適合していることなどを基準として考えております。

令和6年度につきましては、全学年で新課程の教科書を使用することになります。普通科、理数科それぞれについての選定基準としましては、記載のとおりです。

資料3 ページ左上に様式と示された令和6年度使用高等学校用教科用図書選定理由書をご覧ください。

令和6年度使用教科用図書について、昨年度採択した教科書から新たに変更したものはないことを最初に申し添えます。

具体的な選定理由について、いくつか抽出してご説明します。

まず、家庭科ですが、家庭科では家庭基礎または家庭総合のいずれかを必修科目とすることになっております。本校では、教育課程上、家庭基礎を必修科目としており、2年次で普通科・理数科ともに家庭基礎を履修します。引き続き東京書籍の「家庭基礎」を選定しました。

近年の社会情勢に合わせた内容や科学的な内容も盛り込まれており、次世代を担う生徒たちが社会に関心を持ち、考える機会を与えられる構成になっております。また、これからの超高齢化社会に向けた介護福祉教育のほか、消費者教育、金融教育等を含め、生徒が現在そして将来にわたって生きる力を身につけ、自分らしい生活を創造するのに適した内容となっていることを重視しております。

次に、英語の基本方針です。英語科の表現・論理についてご説明します。

新たな学習指導要領となり、次年度で全学年が新課程の下で

の学習となります。1・2年次において「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」は、次年度も継続して啓林館のものを使用します。次年度、新課程の3年次で使用する「論理・表現Ⅲ」については、桐原書店のものを使用する予定です。ここで、使用する教科書の要件として、学んだ文法や表現を使って効果的にやり取りしたり、発表したり、書いたりする言語活動を多く取り入れているか。また、ライティング活動などのアウトプットの機会に用いる教材として十分活用できる内容となっているか。そして、積極的に英語を使おうという意欲や興味・関心を引くような工夫があるか。自己表現活動の機会が設けられているかなどの観点から比較・検討したところ、全ての項目で本校生徒の学習活動を充実させる内容となっていることから、この教科書を選定しました。

続きまして、理科の物理及び化学分野については、普通科と理数科で使用する教科書を別にしております。

普通科においては、興味・関心を高め、基礎・基本の定着に適した構成になっていること、理解しやすい図版や写真を用いて丁寧に記述されているものを、そして、理数科においては、課題研究で使用することも視野に入れ、実験の多くが探究活動として構成されており、発展的な内容に踏み込んだものとなっていることを重視しております。

最後に、教科理数の理数探究については、数学・理科の見方や考え方が多く盛り込まれ、研究を行う上で必要な仮説や計画の立て方などの必要事項や成果をまとめるポスター、口頭発表スライド、いわゆるパワーポイントや論文の書き方、特にSSHの研究発表において英語での論文執筆やプレゼンテーションは大変効果的であり、こうしたところまで構成されていることを踏まえ、選定しております。

以上、千葉高等学校における令和6年度使用教科用図書についてご説明申し上げました。よろしく申し上げます。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

竹田委員 ご説明ありがとうございます。この7ページ、8ページに論理・表現がありますけれども、聞き落としたのかもしれないかもしれませんが、1学年、2学年が啓林館で、3学年が桐原書店に変わったのは、どの辺りが一番良かったのか教えていただければと思います。

中村千葉高等学校長 先程申し上げたように、4つの観点から比較検討しました。まず1つ目の学んだ文法や表現を使って効果的にやり取りしたり、

発表したり、書いたりする言語活動が多く取り入れられているかどうかという点では、桐原書店の場合は「Can-Do!」といった項目があって、図表が分かりやすいこと。該当ページを一目見ただけで取り組む活動の目的や内容が簡単に把握できるようになっていることが挙げられます。

2つ目に挙げましたライティング活動などのアウトプットの機会に用いる教材として十分に活用できる内容となっているかという点については、桐原書店のほうは、ライティング活動にしっかりと焦点を置いたセクションが教科書内の各ユニットに設けられていること。そして、スピーキング活動においても、ロールプレイングセクションなど授業の活動として活用しやすい項目が設けられていることなどが挙げられております。

竹田委員 ありがとうございます。

高津委員 ご説明ありがとうございます。直接、教科書ということではないのですが、課題で大学、市内研究機関等の連携事業、また教科用図書の特色でSSHのプログラム等で高校と大学との連携ということで、恐らく地元ですから千葉大学がこの一つに入っていると思いますが、例えば千葉大学で飛び級による制度があるのですが、具体的にここ2、3年、飛び級で千葉大学に行った生徒というのはいるのでしょうか。

中村千葉高等学校長 過去には、本校において飛び級の生徒が1人いましたが、ここ2、3年においてはおりません。

高津委員 ありがとうございます。

鶴岡教育長 他にご質問もないようですので、議案第33号「令和6年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決とします。

議案第34号 令和6年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について

鶴岡教育長 議案第34号「令和6年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」、稲毛高等学校長、説明をお願いします。

工藤稲毛高等学校長 議案第34号「令和6年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により議決を求めるものです。

参考資料の令和6年度使用教科用図書選定理由書、千葉市立稲毛高等学校をご覧ください。

まず1ページになります。「1 本校の実態及び重点目標」ですが、本校は、豊かな国際感覚を身につけたグローバルリーダーを育成することを目的とし、自分たちの伝統文化を理解する姿勢を持つこと、外国の伝統文化を理解する姿勢を持つこと、自らの考えや意見を発信し、具体的に行動することができる力を養うことを柱として、教育活動を行っています。

特に重点目標として、国際教育を推進するに当たり、生徒の基礎学力の定着を図り、学習意欲を高揚させるための取組みを行うこととしております。

具体的には、始業前の朝学習や課題等による家庭学習の推進、さらには授業や学校行事等で学習成果を積極的に発信するプレゼンテーション活動の充実に取り組んでおります。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの生徒の受入れや本校生徒の海外語学研修などを中止しておりましたが、今年度はアメリカやカナダ、韓国から5校の生徒の受入れを行っており、この8月も本校生徒はオーストラリアへ海外語学研修に行くなどして、海外の学校と交流する取組みを積極的に推進しているところです。

続きまして、「2 本校に求められる教科用図書の特色」ですが、普通科では、各教科ともデータ、図、写真等がバランスよく配列されており、言語活動へのアプローチも充実した内容となっていること。英語では、様々な分野の話題がバランスよく取り上げられ、語彙や文法も充実していること。外国人講師とのチームティーチングにおいて、発信活動のしやすい内容であること。速読・精読等、目的に合わせた学習に適していること。英語力4技能の伸長を測定することに適した構成となっていることが挙げられます。

また、国際教養科では、ただいま申しあげました共通科目に加え、専門科目の特色を生かすことができる高度な表現活動がしやすい題材や表現を扱っているものとしています。

次に、「3 教科用図書の選定基準」についてですが、学習指導要領の教科・科目の内容を十分に考慮し、本校生徒一人一人の実態を踏まえることや、本校の教育目標に照らし合わせ、適切であるかなどを基準としております。

次に、2ページになります。教科用図書選定の経緯です。本年4月5日に教科書選定委員会委員を委嘱し、同日第1回会議を開催し、その後3回にわたる会議を受け、選定作業を終了しております。

続いて、3ページになります。様式1「令和6年度使用高等学校用教科用図書選定理由書」になります。新学習指導要領での学習が第2学年まで進んでおり、来年度、第3学年が使用するものは新教育課程の下で全て新しい教科書を選定することとなります。

昨年度、既に新教育課程の下で選定を行った第1学年及び第2学年については、理科の生物基礎及び英語コミュニケーションIを除き、昨年度採択したものと全て同じ教科書を選定しています。

その変更した生物基礎と英語コミュニケーションIの選定理由についてです。生物基礎については、4ページの下から2段目にあります。実教出版の「生物基礎」に変更しております。必修のため、様々な進路を考える生徒が履修します。視覚的に記憶に残りやすく、学習している内容の生命現象全体での位置づけを直感的に理解できたり、コラムや特集など興味を引く工夫がたくさんあり、学習内容をより印象づけやすいなどが挙げられます。

また、英語コミュニケーションIにおいては、5ページになります。5ページの一番下の段、啓林館の「ELEMENT English Communication I」に変更しています。生徒の興味・関心を引く題材等があり、思考・判断・表現に結びついた深い学びが展開でき、自主学習をしやすくしたりするなどのデジタルコンテンツも充実しており、活用しやすいなどが挙げられます。

また、来年度3学年が使用する教科書の具体的な選定理由について、いくつか取り上げてご説明します。

国語科です。様式Iの3ページに戻ります。上から5段目、古典探究ですが、大修館の「精選 古典探究」を選定しています。古文は物語、随筆、日記、和歌など、漢文は故事、寓話、史伝、漢詩など、ジャンル・時代ともバランスが良く、古典として価値があるものが選定されている点が挙げられます。

地理歴史公民科です。同じく3ページです。下から4段目と3段目になります。日本史探究と世界史探究ということになります。

まず、日本史探究ですが、山川出版の「詳説 日本史」、世界史探究は東京書籍の「世界史探究」を選定しています。「詳説 日本史」は、各時代、各分野がバランスよく網羅的に記述されており、通史としての大筋を把握できるとともに、各内容の詳細を理解することができます。「原始 古代」「中世」「近世」「近代 現代」の各時代の最初に時代の転換を意識させ、世界史の展開と関連づけたりするなど、大きな流れを分かりやすく記述しております。「世界史探究」は、世界の歴史の大きな枠組みの展開を捉えやすい構成になっており、各章や各部の冒頭に学習課題の事例を提示し、この学習を追求させ、事象の背景や因果関係を考えさせるなど、課題意識を持って学習に取り組める工夫がされているなどがあります。

このほか、教科・科目についても年次進行しており、教科用図書の選定基準に基づき、教科書選定委員会で協議し、選定しているところです。

以上で説明を終わりにします。よろしくお願ひします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

大山委員 ご説明ありがとうございました。稲毛高校は国際交流に力を入れております。その中で、英語コミュニケーションⅠを啓林館に代えられるということで、2年生と3年生に関しましてはそのままになっておりますが、その辺りを詳しく教えてください。

工藤稲毛高等学校長 啓林館の「E L E M E N T E n g l i s h C o m m u n i c a t i o n」はグループ学習を活用しやすいところということで、変更しております。2年生、3年生については、昨年度ケンブリッジ大学出版による「C a m b r i d g e E x p e r i e n c e」を使っております、それぞれの教科書に記号とかいろいろ用いられているので、慣れた記号で学習したほうがいいだろうということで、そのままケンブリッジ大学出版を採択しております。

大山委員 ありがとうございます。

竹田委員 英語の論理・表現のところで教えていただきたいのですが、千葉高校は啓林館、ケンブリッジですけれども、稲毛高校はいいずな書店を選んでます。どのような違いがあるのでしょうか。

工藤稲毛高等学校長 各社ともいろいろなマークを用いて、話す、聞く、これは読むに値する項目というような、各社それぞれでマークがあり、本校としては、グループ活動でそのマークを使いながら、これがどの

ような項目に対応するというようなことが非常に分かりやすいということがあるので、いわずな書店を使っている。それぞれでグループ活動のしやすさという点で、教科書を選んでいるというところでは。

竹田委員 ということは、論理・表現ですから、5領域を反映させたのですよね。その中の特に話すということが重点的に評価されたということなのではないでしょうか。

工藤稲毛高等学校長 そうですね。話す、やり取りだとか発表だとか。

竹田委員 ディスカッションとか、ディベートとか。

工藤稲毛高等学校長 そうですね。話す、やりとりだとか、発表だとか、書くも含めて英語をアウトプットするというような教科の観点からです。

竹田委員 ありがとうございます。

鶴岡教育長 前回の採択のときにも質問があったというふうに記録を見たのですけれども、今お話があった、いわずな教科書について、主に英語の教職員のほうでこれは良いという教科書で選んだと聞いております。その後、子どもたち、生徒たちの反応というか、生徒たちはどう捉えているのかということを知りたいと思います。

工藤稲毛高等学校長 直接話までは聞いてはおりませんが、授業を見るところでは、非常に活発なグループ活動ができておると見ております。

鶴岡教育長 ありがとうございます。

鶴岡教育長 他にご質問もないようですので、議案第34号「令和6年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、原案どおりと可決とします。

議案第35号 議案第35号「令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について」

鶴岡教育長 議案第35号「令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について」ですが、まず、教科用図書選定委員会の調査結果報告について、選定委員会委員長である教育次長からその概略の報告をお願いします。その後に調査結果についての説明を教育指導課長からお願いします。

秋幡教育次長 議案第35号「令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則

第8条第10号の規定により、議決を求めるものであります。学校教育法附則第9条の規定による教科用図書については、教育委員会会議において決定された令和6年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択方針に基づき、本年6月2日に第1回千葉市教科用図書選定委員会を開催して、教科用図書専門調査員会を設置するとともに、専門調査員を3名任命し、教科用図書選定に係る調査研究等を行ったところです。

また、その調査研究の報告を基に、7月12日に第2回千葉市教科用図書選定委員会を開催し、令和6年度使用教科用図書調査研究報告書を取りまとめました。報告書の内容につきましては、教育指導課長より説明します。

八斗教育指導課長 議案第35号をご覧ください。なお、参考資料として学校教育法及び令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の調査研究報告書を添付しております。

今回採択をお願いする特別支援教育用図書は、令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書です。そして、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律により、令和6年度児童生徒に使用されることになるものです。

それでは、報告書について説明します。別冊「令和6年度使用教科用図書調査研究報告書」をご覧ください。

特別支援学校及び特別支援学級に在籍する児童生徒の教科用図書につきましては、文部科学省検定済教科用図書及び文部科学省著作教科用図書の当該学年用を使用することが原則となっていますが、児童生徒の実態により適切でない場合があるため、学校教育法附則第9条の規定により一般図書を選定することができます。

報告書2ページから5ページの教科用図書につきましては、該当者はありません。今年度、拡大教科用図書を使用している児童生徒は6人おります。

千葉市立の特別支援学校及び特別支援学級で学ぶ児童生徒の多くは知的障害があり、一人一人の発達段階が様々であることや、障害の特性も多様であることから、できるだけ児童生徒の実態に対応できるようにするため、文部科学省検定済教科用図書、文部科学省著作の特別支援学校用教科用図書と併せて、学校教育法附則第9条の規定による一般図書を採択していただきたいと考えます。

10ページから13ページをご覧ください。県教育委員会から示された一般図書の一覧です。12、13ページの備考欄に※印がついているものが、今年度新たに県から示された図書です。千葉市の欄の「○」は昨年度に引き続き、「◎」は今年度新たに調査委員会が採択を希望する図書です。

県教育委員会で示された137冊のうち109冊を選びました。昨年度から継続して選んだ105冊は、いずれも内容が適切で、指導の継続性が高く、児童生徒に親しまれている図書が多いためです。新規に選んだものは、県教育委員会で新たに選定された図書4冊です。

初めに、41ページをご覧ください。No.34「どうなってるの？からだのなか」は、人の体のつくりや働きについて、簡潔な文章で分かりやすく説明されています。また、1つのテーマごとに見開きで説明されており、それぞれに仕掛けがついているため、興味関心を持ちやすく、自分から学習に取り組みやすい内容になっています。

次に、48ページをご覧ください。No.23「学校では教えてくれない大切なこと（9）ルールとマナー」は、社会生活を送るために必要なマナーやルールが適切に取り上げられています。実生活に即したテーマが漫画形式で描かれており、分かりやすく理解しやすい内容となっています。

続いて、51ページをご覧ください。No.8「わくわく音あそびえほんえいごにほんごおうたえほん」は、使い方の説明が写真と文字で分かりやすく示されています。また、日常でよく耳にする親しみやすい曲が英語版と日本語版それぞれにあり、メロディーを聴きながら英語に親しみやすい工夫がされています。No.9「わくわく音あそびえほん新装版にほんご★えいごおしゃべりタブレットえほん」は、平仮名とアルファベットが分かりやすく表示されており、内容的にも身近な言葉が取り上げられているため、楽しみながら英語と日本語の文字や単語を学べるようになっています。タブレットは取り外しができ、扱いやすく、ゲーム感覚で意欲的に学習に取り組むことが期待されます。

以上で、特別支援教育の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

竹田委員 説明ありがとうございます。1月に千葉市の市立美術館で、千葉市の子どもたちの作品展があり、そのブースに特別支援学校

の子どもたちの作品がたくさん並んでいて、非常に感性豊かな作品が多くて感銘を受けました。13ページに、図画に関しては3種類の教材がありますが高学年の子どもたちの美術に関して「あーとぶっく ひらめき美術館」の1冊だけというのはちょっと寂しいのですけれども、そちらはどうなのでしょう。

浅場教育支援課指導主事 ありがとうございます。一般図書の中では、おっしゃるとおり「あーとぶっく ひらめき美術館」1冊であります。通常学級の図工の教科書も選ぶことができますので、児童生徒の実態に合わせて選択しております。

鶴岡教育長 他にご意見、ご質問等ございませんようですので、議案第35号「令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決いたします。

鶴岡教育長 続いて、議案第36号の審議を行います。ここで職員の入替えをお願いします。

<職員入れ替え>

《国語》

議案第36号 令和6年度使用千葉市立小学校用教科用図書の採択について

鶴岡教育長 会議を再開いたします。

議案第36号「令和6年度使用千葉市立小学校用教科用図書の採択について」ですが、まず、教科用図書選定委員会の調査結果報告について、選定委員会委員長である教育次長から概略の報告をお願いします。

秋幡教育次長 議案第36号「令和6年度使用千葉市立小学校用教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により議決を求めるものであります。

小学校用教科用図書については、教育委員会会議において決定された令和6年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択方針に基づき、本年6月2日に第1回千葉市教科用図書選定委員会を開催して、教科用図書専門調査員会を設置するとともに、専門調査員を51人任命し、教科用図書選定に係る調査研究等を行ったところです。

また、その調査研究の報告を基に、7月12日に第2回千葉市教科用図書選定委員会を開催し、令和6年度使用教科用図書調査報

告書を取りまとめました。

報告書の内容につきましては、教育指導課長より説明します。
鶴岡教育長 教科ごとの調査研究の報告に先立ち、決定の方法についてお諮りをします。

全ての教科用図書について、無記名投票により、これを決定したいと考えます。

なお、投票の順番は、文部科学省作成の教科書目録に記載されている種目により、国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳とします。

投票の方法ですが、各委員に配付します投票用紙に、無記名で、採択すべきと考える教科用図書の1つに「○」を記入し、投票してください。

本日の出席者は5人ですので、過半数の3票を獲得した教科用図書を採択することと決定したいと考えます。過半数に達しなかった場合は、改めて意見交換等協議の上、得票のあった発行者によって3回目まで繰り返し投票を行います。ただし、過半数に達しないものの、2者が2票ずつ得票している場合には、その2者によって再度投票を行うこととします。3回の投票により決しない場合は、その際に、決定方法について再度協議することとします。以上でよろしいでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 小学校教科用図書「国語」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 小学校「国語」についてご報告します。

報告書1ページをご覧ください。

まず、千葉市の児童に必要とされる教科用図書についてですが、本市の児童の学力については、本市学力状況調査において、国語科では県平均を上回る結果を示しています。しかし、漢字の習得、辞書の活用、敬語の理解といった「言語・情報・言語文化」の領域において課題が見られます。また、全国学力・学習状況調査での意識調査の結果、主体的に学習に取り組む態度に関わる項目について、肯定的に回答した児童の割合が全国平均を下回っており、課題が見られます。したがって、児童の関心意欲を高め、見通しを持って主体的・継続的に課題を追求していけるといった特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えます。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご

覧いただき、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、「学習指導要領への対応」の（１）について、３年下９ページのように、学習の流れを記載したり、学習の流れを意識した単元配列にしたりすることで、主体的な学びを促しています。「内容」の（４）については、３年上１２０ページでは、二次元コードを読み取ると話し合いの様子を動画で見ることができ、どのように意見をまとめていけばよいか悩んでしまう内容でエラーモデルが示されており、補充的・発展的学習が展開できるよう、よく工夫されています。サイズはＢ５判で、１年生から４年生は上下２巻、５・６年生は１冊の合本です。

次に、教育出版ですが、「学習指導要領への対応」の（２）については、情報活用能力が育まれるよう構成されている点が特に優れています。４年下６２ページの教材では、「不思議図鑑」を作るといった言語活動を設定し、情報の収集と活用の力を育成することを狙っています。サイズはＢ５判で、全学年上下２巻です。

最後に、光村図書ですが、「学習指導要領への対応」の（１）については、４年下１４０ページでは、学習の手引きが４つのステップで記され、見開きのページの中で問いを持ち、課題解決に向けて読み進めていくための学習過程が明確に示されています。また、児童が主体的に読み深めるための選択課題を設けるなど、個別最適な学びと協働的な学びの両面から主体的に学べるようによく配慮されています。「内容」の（４）については、１４５ページからの付録「学習を広げよう」として、文章を書くときに活用しやすい「言葉のたから箱」や学習のまとめが示された「たいせつのまとめ」等の資料を見ることができるよう、学年に応じた補充的・発展的な学習が展開できるよう工夫されている点が、特に優れています。サイズはＢ５判で、１年生から４年生までは上下２巻、５・６年生は１冊の合本です。

以上で、小学校国語の報告を終わりにします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

小西委員 ご説明ありがとうございます。

１点教えていただきたいのですが、各者二次元コードを工夫されているかと思うのですが、若い先生方が活用しやすいという部分で、各者の特徴があれば教えていただけますでしょうか。

畠山教育指導課指導主事 二次元コードについて、ご質問ありがとうございます。二次元

コードに関しましては、各者ともに工夫が見られております。二次元コードで一番数、量的に多いのが東京書籍、その次に多いのが光村図書となっております。東京書籍と光村図書に関しましては、資料動画が充実しております。例えば話し合いの仕方のモデルを動画で示す、また、作者のインタビューを示す等が載っております。教育出版に関しましても、資料が充実しておりますが、少し静止画が多いというところで報告を受けております。

一方、取扱いの仕方という面では、東京書籍の数が非常に多いということから、様々な学習で活用することができると思います。しかし、そのどれを選ぶかという点では、数が多いということも、選択という面では難しくなってくるかと思えます。教員が効果的な資料をどう選ぶかという点においては、適度な量であったり、静止画というのも有効であると考えられます。

高津委員 本市の今後の課題ということで、漢字の習得、辞書の活用、敬語の理解に課題があります。これらをよく取り上げている教科書などはありますか。

島山教育指導課指導主事 漢字、敬語に関しましては、各者とも工夫をしております、発達段階に応じてバランスよく配置されております。漢字に関しますと、東京書籍では「漢字を使おう」という学習が、教育出版では「漢字の広場」、光村図書では「カンジー博士シリーズ」というのがありまして、カンジー博士シリーズは、漫画のようなキャラクターが出てきますので、子どもたちは楽しく学ぶことができるという点があるかと思えます。

敬語に関しましては、こちらも各者バランスよく配置をされているところではありますが、教育出版は4ページ割いて敬語の学習を設けております。どれも5年生の前半に出ておりますけれども、光村図書では2ページでの掲載となりますが、巻末に練習問題の解答等を掲載しております、児童が自分で振り返ることができるようになっております。東京書籍に関しましても、2ページではありますが、巻末に敬語のまとめとして、1ページ付録があります。また、二次元コードから練習問題に取り組むことができるようになっており、それぞれの工夫が見られます。

高津委員 ありがとうございました。

竹田委員 資料1ページの「求められる教科用図書の特色」の中に、見通しを持って学習が進めていけるとあります。各者とも「見通し」

という言葉を使っているのですけれども、東京書籍の見通しは、ほかの2者が教材を読んでから見通しが出ているのに対して東京書籍だけは教材が出る前にいろいろ見通しが書いてあります。例えばほかの2者も2、3行書いてはあるのですけれども、表題から全部、いろいろ予備知識を与え過ぎというか、読む前に種明かしをするというか、何か予定調和的な感じがしたのですね。その辺りはどうなのでしょう。教材に入る前の見通しとしては。

島山教育指導課指導主事 ありがとうございます。

見通しの持たせ方という点でも、各3者ともに特徴があります。例を挙げさせていただきますと、共通教材にあります「大造じいさんとガン」で特徴を比べることができると思います。東京書籍に関しましては、5年生の178、9ページをご覧ください。見開きを使っておりまして、挿絵、それから引用の句などが載っております。学習単元全体の流れを示すことで、教材文に出会う前に学習の見通しを持たせているということが特徴と言えるかと思います。

また、194ページ、教材文に出会う前のこのページからさらに同ページの手引のページで、非常に詳細な手順を追っているという点で、若い教員におきましても、詳細に手順が載っているというところで、的確な指導ができるというようなことが言えると報告を受けております。

教育出版に関しましては、5年生上の90ページが「大造じいさんとガン」の学習があります。1ページ前の89ページをお開きください。こちらでは、見開きではなく1ページを使っておりまして、大きな挿絵とともに引用の文が載っております。これにより、物語の世界に引き込むような教材との出会い方、手引は106ページになりますが、その中で詳細なステップを踏んだ学習の見通しを持たせるというような形になっております。

光村図書に関しましては、5年生、227ページ、見開きではなく1ページを使っておりますが、「これまでの学習」というところがあります。今まで学んできたものとのつながりを持たせ、問いや目標も載っている。こういうところで、今までの学習を生かしながら見通しを持たせるというようなことが示されており、246ページに手引がありますが、そこで4つのステップでまた問いを持たせながら学習を展開できるようになっております。学習に出会う前に見通しを持たせるということも非常に重要では

ありますが、そこで示されたものにより、学習の流れが左右されるということも否めません。ただ、若手の教員や児童にとっては、これからこのような学習が始まるのだという点では、見通しを持たせるということでも有効であるとも言えます。また、挿絵により物語を引き込むというようなことも有効であると言えると考えます。

竹田委員 新しく習う漢字の学び方なのですからけれども、よくよく見ると、例えばある漢字で読み方が3つ書いてある教科書もあれば、その教材に出ている読み方しか書いていない教科書もあります。それはどちらのほうの方がよろしいのでしょうか。例えば、「粉」という字がたしか5年生で習うのですけれども、ある教科書は「コナ」としか書いていない。でも、ほかの教科書は花粉の「フン」とか、米粉の「コ」という読み方も書いてある。一遍に3つの読み方を覚えるのは大変かもしれないし、1つのほうが良いのかもしれない。あるいは、学習の観点という意味では3つあったほうが良いのかもしれない。その辺りはどういうふうにお考えでしょうか。

畠山教育指導課指導主事 漢字に関しましては、千葉市の児童の課題と言えるところにもなります。漢字の読みからまず学ぶことで、それを書きにつなげるといったところが漢字の学習の流れとしてはよろしいかと考えております。そういう点でいいますと、読みに早く出会う、そういうことは学習の習得、習熟につながるということも言えますが、一方で、漢字を苦手としている児童にとっては、早くから出てくるということで、読めない漢字が増えていくという部分でも言えると考えられます。ですので、発達段階に応じて漢字が順々に出てくるというのが児童にとっては学習しやすいかと考えることができます。

竹田委員 まだ習っていない漢字が教材に出てきますよね。その取扱いが3者で少し違うような感じがしたのですけれども、丁寧な工夫だと思ったのは東京書籍です。習っていない漢字は必ずふり仮名が振ってあるのですけれども、ほかの2者は、最初しかルビを振っておらず、最後までは何も振っていないのですね。ところが、東京書籍は丁寧というか、1枚めくってまたその文字が出てくると必ず振ってあって、そのページの中ではそれだけなのです。だから、そういうきめ細かい何か工夫している感じは印象的でした。その辺りはいかがでしょうか。

畠山教育指導課指導主事 ありがとうございます。「段落」という学習用語が3年生であります。そちらのところに特徴がありまして、その報告を受けておりますので、説明させていただきます。

東京書籍に関しましては、学習した学年に合わせて段階的に表記をしているというふうに報告を受けております。段落の「落」を3年上で習うのですが、「落」を学習した3年下では、「落」のみを漢字で「段」は平仮名、5年生で「段」という漢字にルビをつけて漢字表記をし、そして、「段」を学習した6年生ではルビなしの漢字表記ということで、非常に段階を追っているという点では丁寧であると言えます。

教育出版に関しましては、「段」と「落」の学習を両方終えた6年上までは平仮名表記をしておりまして、非常に易しく学びやすいと言えます。「段」を学習した6年下からは両方とも漢字表記になっているというふうになっております。

光村図書に関しましては、3年上で「落」を学習しておりまして、「段」にルビをつけて、漢字の両方とも「段」と「落」、漢字の表記となっております。それ以降はルビをつけずに漢字表記というふうになっておりまして、3者の中では最も早く両方の漢字を漢字で表記しているというふうになっております。

3者ともに、各者の工夫が見られると聞いております。まず読みから、それから書くというふうに力をつけて繰り返し学ぶものなので、どこでどのように出会わせるかということによって、各者の違いがあると言えると考えております。

鶴岡教育長 私の方から2つ質問をさせていただきます。

まず1点目は、この後の教科にもつながってくるのですが、ギガタブを含めて、保護者等から重さ対策を何とかしてほしいという声が届いているのが本音であります。比較的持ち帰りが多い国語ですけれども、合本か分冊かというところで検討はされたかお聞きしたいと思います。

畠山教育指導課指導主事 専門調査員より合本なのか、分冊なのかという点で話し合いがなされ、報告を受けております。

全学年通して上下巻に分かれておりますのは、教育出版となっております。東京書籍と光村図書は5・6年生が合本となっております。合本のよさとしましては、学習を一冊で振り返ることができるという点にあります。1年間の学習が一冊にまとめられておりますので、振り返って前の学習に関しても見ることができ

ます。

主体的・対話的な学習を進めていく上では、行きつ戻りつ学ぶという点では、5・6年生の合本というのは中学校への接続を考えますと、有効であるということで聞いております。

一方で、教育出版の2冊という点に関しまして、やはり合本ですと重くなってしまいますので、その点では非常に持ち帰り等に関して、軽くて子どもたちにとっては持ち運びやすいと言えます。それから、後期にまた新しい本に出会うというようなよさもありますので、その点、合本それから分冊ということで、その辺りの違いがあるということで報告を受けております。

ちなみに、重さでいいますと、東京書籍それから光村図書、5年生で比べたのですが、501グラム、502グラムとほぼ変わらない重さでありました。教育出版のほうは1冊上が292グラム、下が331グラムということで、分冊、2冊合わせると重くなってしまいますが、1冊分は軽く持ち運びしやすいという特徴がありました。

鶴岡教育長 ありがとうございます。では、もう1点です。

本市の児童の実態に即した教科書を選びたい、これもほかの教科書も同じなのですけれども、学力状況調査等の結果、領域別等において本市児童の課題は何か教えてください。

畠山教育指導課指導主事 本市児童の課題としましては、領域でいいますと、まず、読むことにおいては3年生、5年生の検査ともに上回っておりまして、非常によい結果となっております。課題といいますのは、言語文化、それから漢字や敬語というところです。それと、話すこと・聞くことについては、3年生、5年生ともにポイントが下回っております。書くことにおいては、3年生が0.9ポイント下回っているのに対しまして、5年生は5.7ポイント上回っているという状況にあります。その辺りから考えますと、話すこと・聞くこと、それから言語・情報・言語文化の2点であるかと考えられます。

鶴岡教育長 直近の状況調査では、言語・情報・言語文化が比較的課題かなというふうに捉えております。

竹田委員 段落のところを読んでいて気がついたのですけれども、光村図書で誤植があると思います。3年上の155ページ。この本で習う漢字というのがあるので、3番目に落ちる「落」というのがありますね。「落」はどこに出ていますかというのと、

47ページとあるのですが47ページには出ていない。どこに出ているかという、46ページにあります。これは誤植だと思います。小さいところですが、気がついたので、もし光村を採用する場合には、ここは直していただかないといけないと思います。

鶴岡教育長 質問も出尽くしたようなので、ここからは意見を述べさせていただきます。

教育指導課長からの報告の中でもあったのですが、3者ともそれぞれ特色がある教科書であったと捉えております。

光村図書につきましては、文学作品に優れていて、「言葉のたから箱」などの資料が充実していて、言語活動の育成に長けているというふうに捉えました。

教育出版につきましては、多様な言語活動を取り入れるという点でメリットがあって、情報活用能力が育まれるよう構成されているというのは、特に優れているというようなことで、こちらも捉えました。

東京書籍につきましては、情報リテラシーなど今日的な課題に関する話題や教材がよく配列されているなと思いました。これがまず特色であって、互いに、ここは部分が重なっているかなと思いました。

現状社会からすると、情報化の進展も含めて、子どもたちの語彙力であったり、読解力が低下していると言われてるのは否めません。コロナ禍の影響も含めて、意識して伸ばしたいところは、やはり対話する力かなと私は考えます。その点、光村図書では言葉が豊富であることが大変魅力だなと思いました。

そして、教育出版では、対話的な学びが重要視されて、系統立ててアプローチしやすくなっていると捉え、私としては今、光村図書と教育出版で悩んでいるところでもあります。

小西委員 私も意見を述べさせていただきます。

私は東京書籍と光村で非常に悩みました。本市の課題は、主体的に取り組むという点と、個々の児童の実態に合わせていくという点と、学習の狙いやゴールが明確に示されているものを選ぶという点で、この観点を中心に、共通教材の一つにあった「大造じいさんとガン」などを中心に検討をさせていただきました。

東京書籍と光村図書は、言葉や漢字を丁寧に拾って、丁寧に説明をしているなという印象を抱きました。あと、学びの過

程についても、3者とも非常に工夫をされていて分かりやすいなと思ったのですが、東京書籍と教育出版がまず物語を読んだ後に内容の読み取りや整理から入っているのに対して、光村図書のほうは「問いを持とう」という中で、あなたはどう感じましたかとか、最も印象に残った部分はどこですかという形で、教師の読みを伝えるのではなくて、子どもたち一人一人がどう感じたかという子どもの視点を出発点としているという点で、主体的な活動を促すのではないかと思いましたし、選択課題がある点でもよいのではないかなというふうに思いました。

あとは、話し合い活動であったり、聞くことに関する課題に対しては、東京書籍と光村図書は資料動画が充実をしているなというように感じました。特に、光村図書の作者インタビューの5年の「銀色のわらじ」であったり、6年の「帰り道」など、私も作者による説明動画を見させていただいたのですが、非常に深いメッセージが込められており、こんなふうに考えてつくられたのかと感動を覚えましたので、子どもたちにもぜひ見てしてほしいなというふうに思っています。

あとは、全体的には、光村図書は、先ほどありましたように「言葉のたから箱」で日本語の豊かさであったりとか、あとは日本の文化や四季を愛でるような内容が非常に多くて、その辺でも好印象を持ちましたので、私は光村図書がよいのではないかなというふうに考えております。

大山委員 私は、小西委員と意見が似ているところがあるのですが、東京書籍に関しましては、新しく習う漢字の説明が、ほかの2者に比べて丁寧だと思いました。いろいろな読み方とかも出ていますし、その辺りは上回っているなと思いました。また、光村図書に関しまして、やっぱり「言葉のたから箱」は、話す・聞く・読む、そして思考力などを身につけるための量的・質的な、活用的な語彙力がすごく整っているなと思いました。

高津委員 私のほうは、3者読ませてもらって、先ほど文学作品がいろいろあるということで、各者読み応えがあったなと思います。私は、どちらかというとなら光村図書か教育出版がいいのかなと思います。光村図書、先ほどからも出てきているのですが、子どもの立場から言うと物語を読んで、これはどんなことが書いてあるのかなというのを自分でまとめるときに、やはり「見通しを持とう」から「振り返る」まで、順序立てて丁寧過ぎるくらいの、

捉えよう、深めよう、まとめよう、広げようということで、いろんな手だてを迫って自分で考える。それ以上のことが、例えば授業でそれを振り返られるということで、この辺りがよかったかなと思います。

それから、小西委員も話をされたのですが、「言葉のたから箱」、これは正しい日本語を使って手紙を書いたり、あるいは意見を書いたり、報告書を書いたり、これはこれから先も必要になるもので、かなりためになると思いました。

教育出版ですけれども、国語力の源というのは、言葉、言語、語彙だと思っています。そうしたところ、1年生から6年生まで、例えば「言葉の広場」とか、あるいは「漢字の広場」とか、そういうのでいくつかトピックスを取っております。それを目次の次のページで何年に学ぶことの下に「言葉の広場」、2年生ではこれだけこういうことを学んだよと、あるいは「漢字の広場」、言葉の語彙、あるいは「読書の広場」というのはまとめて、しかもそこにページが書いてあるので、例えば後で振り返って子どもが見るときに、これは何ページを見ればいいのかというふうに変丁寧に書かれていたのが、その言葉ということで感じました。

先ほど上下分冊、これは振り返りのときにあったほうがいいと言いますが、例えば下巻になったときに、家で振り返るときはもちろん持って帰りますが、通常、学校で見るには置いておけばいいので、やはり特に5・6年生はそれぞれの教科がかなり厚い教科書になっているので、分冊がいいかなと思っています。

竹田委員 私も、東京書籍と光村図書で、非常に悩んでいるのですが、結局は各単元構成で見通しをどうするかということで、基本はまずその教材を子どもたちがどう考えるか、そこが出发点だと思いますので、東京書籍のほうは少しいろいろな材料があり過ぎるような気がしております。私としては、どちらかというとならぬ光村図書かなという印象です。

鶴岡教育長 その他にご意見、ご質問等ありませんようですので、これより令和6年度に本市立小学校において使用する「国語」の教科用図書を決定したいと思います。

初めに、発行者の読み上げをさせていただきます。読み上げにつきましては、文部科学省作成の教科書目録に記載されている発行者の番号順で行います。以降の教科につきましても、同様とさせていただきます。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「国語」の発行者は3者、「東京書籍」「教育出版」及び「光村図書出版」です。

この3者から投票により決定をします。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について、報告します。

「教育出版」1票

「光村図書出版」4票

「光村図書出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「国語」の教科用図書は、「光村図書出版」と決定しました。

《書写》

鶴岡教育長 次に、小学校用教科用図書「書写」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 小学校「書写」について報告します。

まず、千葉市の児童に必要とされる教科用図書についてですが、本市の児童の学力については、国語科において基礎的・基本的な定着はそれぞれが県の平均を上回っています。しかし、書写に関わる「知識・技能」「言語・情報・言語文化」においては、県の平均より低い数値となっていることが課題です。したがって、書写の基礎・基本が確実に身につくような特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えます。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご覧ください、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、「内容」の(2)については、1年4・5ページのように、鉛筆の持ち方について、図や写真の提示が左利きの児童に対しても分かりやすく、硬筆の入門期として適切です。サイズはB5判で、各学年1冊です。

次に、教育出版ですが、「内容」の(2)について、書写の入門期に必要な内容を写真やイラスト、言葉を組み合わせる具体的に示し、特に毛筆の筆圧については、3年11ページのように、

太い線や細い線の書き方を図で示して、視覚で理解しやすくなるようよく工夫されています。また、(4)について、6年8ページにおいて、自分の目当てに合わせた練習用紙を作成することで、文字の組み立て方と文字の大きさや配列を意識するようによく工夫されています。サイズはB5判で、各学年1冊です。

次に、光村図書ですが、「学習指導要領への対応」の(2)については、5年35ページのように、日常生活や他教科に生かすための題材を取り上げ、主体的に学習できるよう、よく工夫されています。「内容」の(2)については、1年の最終ページに水書用紙をつけて、枠と中心線があることでどの単元でも使用することができ、基礎・基本的な事項が確実に習得できるようよく配慮されています。サイズはB5判で、各学年1冊です。

以上で、小学校書写の報告を終わりにします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

小西委員 ご説明ありがとうございます。2点質問ですけれども、まず1点目が、各者二次元コードがあるかと思うのですけれども、3者で特徴があれば教えていただきたいです。

2点目が、国語の教科書と違う者でも問題はないというふうには考えてはいるのですけれども、同一の者であることでのメリットがあれば教えていただきたいです。なければないで大丈夫です。

小暮教育改革推進課指導主事 報告させていただきます。まず1点目についてですけれども、二次元コードに関しましては、各者とも工夫してたくさんの二次元コードがついております。教科書の見開きにおいて、右側、左側という差はあるのですけれども、内容を見させていただきますと、例えば毛筆の具体的な動画の中で、正面から撮った動画、斜めから撮った動画、2つのものを示して、実際の筆の運びが見やすくなっているような工夫がなされていたり、そのほか、字幕をつけて、どのような児童に対しても正しく、分かりやすく理解できるようにという工夫がなされている会社もありました。どの二次元コードを使用してもそういった工夫が見られて、児童にとっては視覚的に捉えられるいい資料だというような報告を受けております。

続いて2点目、国語の教科書と違う者でも問題はないのか、というお話がありましたが、どの教科書会社においても、他教科との連携というものは記載されていて、そういった部分に重点を置

き工夫をしていることが分かります。同じ者であると、国語の読み物教材の抜粋を用いているので、児童にとってはそういった部分で書写で身につけた力を生かすというところがより意識しやすくはなっているのかなというふうに感じます。

竹田委員 1つ教えていただきたいのですけれども、小学校の入学時点で字を書けない児童は少ないと思います。点画は非常に大事だと思いますが、実際入学当初の児童の字というのは点画を間違えていることは結構多いのでしょうか。

小暮教育改革推進課指導主事 報告させていただきます。専門調査員から聞いた話になりますけれども、実際に文字を全く書けないという児童は少ないとは聞いております。ただ、筆圧というところが全てにおいて力強く全力で書いている。これは点画の話につながると思うのですけれども、そういった部分の指導、書写では大きな役割を担っていると思います。3者とも1年生の教科書に水書用紙を用いて資料としていて、学習の中で使えるようになっておりますので、その点画の指導というところでも、3者とも工夫がなされていると感じました。

鶴岡教育長 他に、ご意見も含めていかがですか。

大山委員 今回3者を比べさせていただきました。教育出版社の水書の朱墨を利用して練習するページが大変多くありました。その中で、とても工夫しているなと思いましたのが、実際の筆の写真が個々に載っておりまして、それを見ながら児童たちが勉強できる。これは大変有効だなと思いました。それともう一つ、どうしても最初に習った字をそのままずっと書いていく授業というのが多いのですが、止め、はね、払いに力を入れていまして、意識を持たせるのに大変有効だなというふうに私は感じました。

高津委員 1・2年生が硬筆で、そして3年生からは毛筆ということで、とにかく1年生で入ったときに一番最初に教科書、目に触れるのは1ページ目、ぱっと表紙を開けたとき、それを3者見ますと教育出版が何か楽しそうだなという感じがしました。

2つ目は、書写は硬筆も毛筆もやっぱり姿勢が一番肝心だと思います。書くときに、各者とも子どもの写真などを使って正しい姿勢で書きましようとしているのですが、やはり教育出版はイラストもちょうどいいところにありますし、筆の持ち方も構図的に、構成的に一番見やすいなと思うので、私は教育出版がいいのかなと思います。

小西委員 私は、教育出版と光村図書で非常に悩んでおりまして、教育出版のほうは筆圧、点画が非常に分かりやすい、また朱墨も分かりやすいというところがありますし、他方で、光村図書のほうは、視覚的に、習字が苦手な児童にもよりよく配慮されているなど感じました。まとめの大切という部分のところでは絵で説明があったり、あとは5・6年生の「部分の組み立て」というところで、漢字ごとに色分けがされていたりであるとか、あとは1年生の水書用紙に点線リーダーがついていたというところで、習字が苦手な子にとっては分かりやすいだろうと感じました。

光村図書のほうで気に入ったのが、6年生の一番最後の「私の文字」というところがあるのですが、教科書的なきれいな文字が書けなくとも、その人の書く文字の味わいだったり個性を大事にすればいいんだよというようなメッセージが伝わる内容がありまして、千葉市の児童たちは自尊感情が低いという課題があると推測されていますので、こういった個性を大事にする内容は千葉市の個々の子ども達の自尊感情にもつながるのではないかという点で印象がよかったです。教育出版と光村図書、どちらかにしようかと思っております。

竹田委員 基本的に、書写は何が一番大事かということ、正確な文字を美しく書くことだと思うのですね。そのためには、やっぱり点画をきちっと覚えないと、間違えて覚えると一生引きずってしまうので非常に大事だと思います。そういう意味で、止めとか払いとか、折れとか曲がりとか反りとか、そういう部分をきちっと教えることが大事だと思いますけれども、非常にいいなと思ったのが教育出版です。例えば小学校1年生、2年生の、ページでいうと、色々あるのですけれども、いろいろなところで点画の振り返りをたくさんやっており、また3年で毛筆が始まりますので、そのような点画をきちっと繰り返し教えているので、その点は非常にいいと思いました。

鶴岡教育長 私は特に1年生と3年生、1年生のスタート、そして毛筆が始まる3年生、ここを特に中心的に見たつもりです。1年生のほうでは、文字の形、鉛筆の持ち方、各者とも工夫しているのですが、より工夫できているのは、やはり教育出版かなと思いました。それから、今どきという言葉が妥当かどうか分からないのですが、昔は文字といたら、鉛筆といたら右手という時代だったと思うのですけれども、今の児童たちは、左利きも多いので、左利き

に着目した東京書籍のほうも面白いづくりかなと思いました。

報告にあったように毛筆の開始が各者ともしっかり工夫されているので、写真やイラスト、言葉を組み合わせて詳しく説明できているやはり教育出版がよりいいかなと思いました。

鶴岡教育長 その他にご意見、ご質問等ありませんようですので、これより、令和6年度に本市立小学校において使用する「書写」の教科用図書を決めます。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「書写」の発行者は3者、「東京書籍」「教育出版」及び「光村図書出版」です。

この3者から投票により決定をします。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について、報告をします。

「教育出版」4票

「光村図書出版」1票

「教育出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度本市立小学校において使用する「書写」の教科用図書は、「教育出版」と決定しました。

ただいまの時刻は、11時40分であります。議事の途中でありますので、ここで休憩を挟むこととします。会議の再開は13時とします。

<休憩>

《社会》

鶴岡教育長 会議を再開します。

小学校用教科用図書「社会」に係る調査結果につきまして、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 小学校「社会」について、ご報告します。

9ページをご覧ください。

まず、「千葉市の児童が必要とする教科用図書」についてですが、令和3年度千葉市学力状況調査の結果を踏まえての本市における社会科学習における課題としては、資料や地図等から必要な情報を調べ、それらを比較・関連づけ、総合するなどして考え、

多角的な見方で社会的事象を捉えられるようにすることが挙げられます。そのためには、児童が1人1台端末を活用しながら主体的に問題解決的な学習を充実させることが重要であると考え、報告書にあります5つの特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えます。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご覧いただき、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍です。「学習指導要領への対応」の(3)については、例えば4年74ページからの単元では、千葉市を例に「つかむ」、76ページから「調べる」、86、87ページが「まとめる」、88、89ページが「いかす」の一連の学習過程を明示しています。さらに「みんなで話し合う」対話的な表現で活動を促しており、主体的・対話的で深い学びが実現できるようよく工夫されています。

「内容」の(2)については、5年上106、107ページでは、プレゼンテーションソフトを使ってまとめており、多様な表現活動を通して思考力等が育まれるようよく配慮されています。サイズはA B判で、5・6年は内容に応じて各2分冊されています。

次に、教育出版ですが、「内容」の(1)については、3年10、11ページでは左ページに「この時間の問い」を設けて問題を明確にし、右のページでは「次につなげよう」を設けて一貫性のある追求ができるよう、学習活動のつながりを重視した構成になっており、見通しを持って主体的に学習に取り組めるよう、内容を適切に取り上げています。

「造本」の(1)については、6年210、211ページでは、「まちなかに立てられた看板」をはじめとした写真使用をA Iでカラー化しており、従来の白黒写真より、色・形・模様までも判別できるよう、よく配慮されております。サイズはA B判で、全学年1冊です。

最後に、日本文教出版ですが、「学習指導要領への対応」の(2)については、カリキュラム・マネジメントの視点から、3年14ページでは、理科の「方位で方向を表す方法」を例示して、未習の場合を考えて対応しており、教科等横断的な広がりについてよく配慮されています。サイズはA B判で、全学年1冊です。

以上で、小学校社会科の報告を終わりにします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

大山委員 ご説明ありがとうございます。

「千葉市の児童の学力と今後の課題」というところで、ギガタブやデジタル教科書などのICTの効果的な活用有ということがあります。二次元コード、各者かなり出ていますが、その中で各者の特徴的なところをご説明していただければと思います。お願いします。

岩田教育指導課指導主事 各者の特徴ということで、聞いているところをお伝えさせていただきます。

各者非常に、二次元コードに力を入れておりまして、内容も多くなっているのですが、特徴的なところで言いますと、東京書籍につきましては、単元の導入動画、また学び方を学ぶ動画、デジタルワークシート等ある中で、一つ、インタビュー動画ということで、例えば米作り農家の人の話というように、従来の教科書にあるページの誰々さんの話といったようなところを、インタビュー形式で話す、そのような動画が充実していると聞いております。

続いて、教育出版につきましては、授業の内容、教科書を補足するような内容、外部につながるリンク、ワークシート等ある中で、特徴的なところとしましてクイズ形式のもの、児童が楽しみながら取り組めるような、例えば都道府県、人名クイズ、4年生で言うと県の形がクイズになっているような、クイズ形式のものがあるのが、児童の興味、関心を高めるのではないかという報告を受けております。

また、日本文教出版につきましては、インタビュー等の動画資料、ワークシート、外部リンクへの接続等ある中で、一つ特徴的なところは、スライドショーとしまして、時間の移り変わりが複数のスライドショーで変化を捉えやすくする、例えば6年生の歴史で、日本の領土が、日清戦争前、日清戦争後、日露戦争後と、時代を経て範囲が少しずつ変わるようなところが、スライドショーで分かりやすく示している、というような報告があります。

竹田委員 教えていただきたいのですけれども、社会だと各単元に選択という項目があるのですけれども、これは児童が自由に選ぶのですか。それとも、偏りがあるから分けたりするのですか。例えば単元で言うと、3年生で働く人と私たちの暮らしとあるのですけれども、東京書籍では、農家の仕事、工場の仕事、店で働く人の

仕事とあって、このうちの2つを選ぶことになっていますが、どのようにしているのでしょうか。

岩田教育指導課指導主事 社会科でそのような、単元の中での選択のところにつきましては、一般的には児童個々が選ぶのではなくて、その学校、学年で、児童たちの実態を踏まえ、その地域性の学習のしやすさ等も踏まえて、こちらの単元を選択しようということを決めて取り組むのが多いです。

竹田委員 あと6年生で、世界の中の日本というのがあるのですが、そこでも4つの国の中から選ぶことになっているのですが、これで見ると、中国、アメリカ、ブラジルは3者共通ですが、もう一国は全部違うのですが、これは学習指導要領の決まりがあるのですか。例えば教科書に載っていないような、イギリス、インド、モンゴル、ロシア、ウクライナなど、そういうものを希望する児童が出ることはないのですか。

岩田教育指導課指導主事 この単元は、日本とつながりの深い国々という単元ですので、今この世の中で、日本とつながりが全くないという国はむしろないとは思いますが、そのつながりの深いという観点から言うと、今おっしゃった中でも、日常どれだけ日本と深くつながりがあるかといったときに、あまり接点がないような国ではなく、やはり、複数の教科書会社を見ても、大体この国が入ってくるかなというところは固まってくるというところがあります。

竹田委員 分かりました。

もう一点教えていただきたいのですが、千葉市の児童の課題として、知識、理解が少し下回っているというところがあったのですが、そのためには資料の正確性が大事だと思うのですが、気になったのは、5年生の工業地帯の単元のところで、私の古い記憶だと、日本の三大工業地帯は中京、阪神、京浜だと思ったのですが、順番に言うと、阪神、中京、関東内陸、この3つが三大だというような記載もあり、教科書によって差があるのですが、これは入試で、試験に出るようなところだと思いますので、正確性というか、それはどう考えたらよろしいのでしょうか。ページで言いますと、日本文教出版は140ページ、5年生です。

岩田教育指導課指導主事 ご指摘いただいた工業地帯のところですが、日本文教出版が140ページで示している工業地帯であったり、東京書籍で言うと6ページになります。教育出版で言うと158ページになりますけれども、その工業地帯に、どこまでの都道府県を含め

るかといったところで、3者のページで、若干違いがあります。

東京書籍と日本文教出版につきましては、京浜工業地帯のところを東京都と神奈川県で記載しています。それに対して、教育出版につきましては、東京都・神奈川県と埼玉県というところで、含めている県が違うことで、若干違いが生じています。現在、1つの工業地帯を指すときに、京浜工業地帯がどこの県を含むかといったようなところにつきましては、元々歴史的に戦前、そもそも東京、川崎、横浜周辺の東京・神奈川といったところから始まったエリアでありますけれども、徐々に工業が発展していく中で、近隣の千葉県、そして埼玉県を含めて、広義の捉えで、京浜工業地帯というような指し方をする例もあれば、千葉県の場合は京葉工業地域ということで別で示すような示し方もあるということで、必ずこのくくりでないと、正解、これは間違いといったような形ではなく、明確な基準、はっきりとこれが正解という形にはなっていないというのが現状だという捉えでおります。

ですので、どちらが正しい、必ずこうでなければ間違いということではなく、そのような現状があるので、指導する際に、歴史的に1つの工業地帯が、どのような発展をしてきたかといったところも踏まえて指導していく必要があると言えます。

竹田委員 それは分かるのですけれども、ただ、京浜工業地帯が5位であったり、2位であったりというのはちょっと離れすぎているような気がします。高校の入試でこういうグラフを出して、この中からこれはどこ、これはどこというものが試験にあったような気がしますので、その辺りは教科書会社で話を詰めないで困るのではないのでしょうか。これは意見ですけれども。

小西委員 1点教えていただきたいのですが、東京書籍と教育出版で悩んでいるので、どちらも非常に高いレベルで優劣つけがたい教科書だなというふうに感じております。

問題解決的な学習の仕方について教えていただきたいのですが、大きな視点で、東京書籍のほうは、具体的な事例を非常に書いているなというふうに感じました。特に3・4年生ですけれども、その単元で同じ地域を一貫して取り扱っているというような印象を抱きまして、他方で教育出版のほうは、「次につなげよう」というのと、「この時間の問い」という間に連続性を持たせていろいろ問題意識を持つことをとても大切にしているなという印象を持ちました。教育出版のほうは、様々な地域事例を取り上げ

て、そこから一般化、抽象化してまとめに導いているというような印象を持ったのですけれども、この2者で、本市の児童との課題である主体的に問題に取り組むという観点から見ると、具体的な事例にずっと付き合っていく方がより良いのか、もしくはいろいろな地域事例から一般化して紹介していく方がより良いのか、どちらも問題解決としてはあり得る方法だとは思いますが、どちらのほうか、より本市の児童の課題に合っているというようなことがあれば、教えていただければと思います。

岩田教育指導課指導主事 千葉市の児童により合ったやり方といいますか、今まで比較的多くやってきているやり方としては、様々な地域というよりは、中学年の児童たちの実態を踏まえると、一つの事例からじっくりと、そして単元の導入段階で、単元を貫く学習問題と呼んだりしているのですが、単元全体を踏まえて大きな課題を持ちまして、それを単元の学習を通して解決していくというところで、学習のスタイルのそれぞれのよさというのはあると思うのですが、どちらかというとな千葉市のほうは、そちらの学習スタイルに児童たちも慣れていていかなとあったところがあります。

鶴岡教育長 3点質問させてください。

まず1点目、国語でも聞いたのですが、合本か分冊かというところで、特に東京書籍は分冊になっているのですが、その部分で何か議論があったら教えてください。

岩田教育指導課指導主事 東京書籍の5年生と6年生については分冊、あと2者については一冊ということで、高学年が合本と分冊が分かれています。実際児童の使いやすさ、調べる使いやすさを考えると、調査委員会のほうでは分冊のほうが使いやすいのではないかと報告を受けております。ただ、合本にすることは、例えば5年生の学習で最初に出てきたところと、地理的な特徴と産業が結びついて、後から学習する際に振り返れるといったような、学習の結びつき、振り返りをしやすいといったよさもありますので、合本であることのよさということもあって報告を受けております。

鶴岡教育長 分かりました。

2点目、これは令和3年の政府答弁なのですが、大戦中に行われた朝鮮半島からの日本本土への労働者動員について、強制連行という表現は不適切だというふうに出ています。今回の各者のその部分の言い方というのでしょうか、どういう表現をされ

ているかを教えてください。

岩田教育指導課指導主事 中国や朝鮮の人々の労働ということに関して、3者の表現に違いがあります。

東京書籍につきましては、多数の朝鮮人や中国人が強制的に動員され、工場や鉱山などで、ひどい条件下で厳しい労働をさせられました。

教育出版につきましては、朝鮮や中国から多くの人々を日本に連れてきて、鉱山などの厳しい労働に当たさせた。

日本文教出版につきましては、戦争が長引いて労働力が不足したため、日本の工場や鉱山などで多くの朝鮮や中国の人々が働かされました。というような表現になっております。

政府見解としては、その強制連行というような表現は適切ではないということではありますが、この表現につきまして、3者とも使用しておらず、政府見解を逸脱する表現をしている教科書はないというように認識しております。

鶴岡教育長 3点目です。

本市の独自の教材で、副読本として「わたしたちの千葉市」、「かがやく千葉県」というのがありますが、その副読本との兼ね合いがありましたら教えてください。

岩田教育指導課指導主事 3年生、4年生、中学年の学習では、児童たちが住む市、そして都道府県を学習の事例として行うことが中心となるために、実際の学習では副読本「わたしたちの千葉市」や「かがやく千葉県」というものを活用しております。教科書は、副読本と併せて使用という形になりますので、その資料的な側面も考慮し、例えば3年生の初めに学校の周りを学習するといったときに、教科書を見ると、学校の周りをこういう観点で見ればいいのかといったところは分かりますので、実際に、「わたしたちの千葉市」、副読本のほうを見ると、自分たちの千葉市のことが写真で出てきたりといったような、並行して使うような使い方になります。

鶴岡教育長 では、特にどの者がというわけではなく、各者ともこれは活用をしっかりとできるというところで捉えてよろしいでしょうか。

岩田教育指導課指導主事 はい、大丈夫です。

鶴岡教育長 分かりました。

鶴岡教育長 他にご意見も含めて、いかがでしょうか。

高津委員 私は、東京書籍と教育出版、どちらかかなと思いますが、東京書籍は、3年生は初めて生活科が社会科に移るのですが、「教科

書づくりを見てもよい」とか、あるいは学習の進め方、24、25ページにあるのですが、これがよく丁寧につくられていて、3年生としたら、これらを見て学習がやりやすいなと読めると思っています。

また、東京書籍は写真がきれいで、たくさん使われており、紙面の配置、構成が見やすいというふうに思います。これは教育出版も似たように、構成がうまくて見やすくなっておりま

す。あと、歴史の年表なのですが、東京書籍の年表が非常に分かりやすい、見やすいということで、日本の主な出来事、主な人物、それから世界の主な出来事、それで写真が一行にきれいに写っていますし、それから、私は、その日本の出来事の年号が上にあつたほうが、ほかの2者は、例えば1221年、「承久の乱が起きる(1221)」と書いてあるのですが、上の年代を書いたものと、その実際に起こった年数、これが東京書籍のほうが見やすいかなと思います。

どちらにしても、東京書籍が教育出版がいいなと思います。

小西委員 意見を申し上げたいのですけれども、私はかなり悩んだのですが、東京書籍のほうがいいと思っております。

まず、先ほど質問させていただいた点で、3・4年生の低学年、中学年の児童としては、具体的に一貫したモデルケースのほうが検討を進めやすいだろうと考えます。

あと、6年生ですけれども、政治・国際のところは3者とも非常に分かりやすく、どれも遜色ないと思いました。

歴史については、小学生の段階は72時間程度で全ての歴史を学ぶということで、細かな知識にこだわるより時代の大きな流れをつかむということが非常に大事になってくるだろうと思っています。本当に一例なのですけれども、例えば藤原氏と天皇とのつながりのところで、教育出版のほうは、藤原道長が天皇とのつながりを強め、力を伸ばしたと書いてあるのですが、東京書籍のほうは、藤原氏は娘を天皇のきさきにして天皇とのつながりを強めたというようなことが、背景が本文で書かれています。こういった背景の説明であったり、同じ時代に生きた人と人との関係性が本文の中にきちんと書かれていることによって、物語を読むようにして時代の流れがすうっと児童たちの頭の中に自然に入っていくというような箇所が多いと感じたのは東京書籍でした。

あともう一点、大きな流れをつかむというところで、教育出版と東京書籍の二次元コードを比較したのですが、教育出版のほうはワークシートやクイズや文化に関する動画が多かったのですが、東京書籍のほうの、時代が変わるポイントで、必ず学習の初めに見てみようという動画がありまして、2、3分の動画の中で、その時代の政治と文化が非常にうまくまとめられているなど感じました。これを見るだけでも、児童たちが大きな流れをつかむことはたやすいだろうなと思いましたので、もし、東京書籍になるのであれば、先生方にはこの動画をぜひ活用していただきたいなと思ったところです。

竹田委員 私も教育出版と東京書籍のどちらかで悩んでいるのですが、この2者に関しては、学習の流れが、つかむ、調べる、まとめるというふうに、非常に学習の流れが分かりやすいですね。残念なことに、日本文教出版は様々な問いは出てくるのですが、学習の流れが少し分かりにくい。

あと、東京書籍は、つかむ、調べる、まとめるの間、例えば選択がいろいろあったのですが、最後に生かすということで、3つの選択をしたところをもう一回振り返るところがあるので、そういうのがすばらしいと思いました。

大山委員 私はずっと悩んでいます。教育出版と東京書籍が良いと思いました。

教育出版は右端に年表が詳しく縦型になっていて、すごく見やすかったです。

あと、写真を見比べておりまして、写真に関しては東京書籍のほうが、見やすい写真となっていると思ったのですが、まだ悩んでいる状態です。

鶴岡教育長 私からも言わせていただきます。

まず、私は、教科書を見るに当たって、主権者教育と防災をポイントで見ってみました。各者ともこの部分は工夫されており、大きな差はなかったかなと思っております。

竹田委員と重なる部分があるのですが、どこに違いがあるかという、やはり児童にとって、教職員にとって、どういうふうにすると学びやすいのかなと考えたときに、動機づけからスタートし、情報収集や考察をし、最後にまとめる。まとめて終わるのではなくて、その後に振り返りがしっかりあるという部分では、やはり東京書籍並びに教育出版かなと、私も同じように思いまし

た。

そこにさらにプラスして、より対話的な表現活動を促しているのが東京書籍というように捉えました。なので、私は東京書籍、教育出版のどちらかかなというように思っております。

鶴岡教育長 その他にご意見がありませんようですので、これより令和6年度に本市立小学校において使用する「社会」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「社会」の発行者は3者、「東京書籍」「教育出版」及び「日本文教出版」です。

この3者から投票により決定をします。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について、ご報告します。

「東京書籍 4票」

「教育出版 1票」

「東京書籍」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「社会」の教科用図書は、「東京書籍」と決定しました。

《地図》

鶴岡教育長 次に、小学校用教科用図書「地図」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 小学校「地図」について、ご報告します。

13ページをご覧ください。

まず「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」についてですが、令和3年度千葉市学力状況調査の対象である3学年、5学年の内容を見ると、3学年の「絵地図の正しい読み取り」や、5学年の「世界の主な大陸と海洋、日本の国土」といった地図が直接関係する部分に課題となっております。

したがって、地図に初めて触れる3年生に理解しやすいものや、世界の主な大陸や海洋、日本の国土を調べる際に分かりやすく表されているという特色のある教科用図書「地図」を選定する

必要があるものと考えています。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご覧いただき、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍、「学習指導要領への対応」の（２）については、62ページのように世界のいろいろな料理などを写真で紹介し、教科等横断的な視点で活用できるよう、よく工夫されています。

「内容」の（３）については、81、82ページにかけて、日本の世界文化遺産などが写真付きで掲載され、日本各地の祭りや食文化が取り上げられているなど、日本の伝統や文化への理解を深めていくことができるよう、よく工夫されています。サイズはA4ワイド判の1冊です。

次に、帝国書院ですが、「学習指導要領への対応」の（１）については、9ページの二次元コードから、実際の写真から地図になっていく過程がアニメーションで見られたり、写真の場所の様子が機械を向けた角度で見られるVR画像で見られたりする点が特に優れています。

「内容」の（２）については、地図帳を初めて手にする3年生を考慮し、例えば12ページのように14枚の紙面にわたる地図の約束や地図帳の使い方など、基礎的、基本的な事柄について丁寧な説明がある点が特に優れています。

「造本」の（２）については、18ページ、「陸の高さと地図のしくみ」の地図に見られるように、等高線の色分けに加え、陰影をつけることで山が浮き立って立体的に見えるようにしてあり、よく工夫されています。サイズはA4ワイド判の1冊です。

以上で小学校「地図」の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

竹田委員 ご説明ありがとうございます。

地図は3年生から始まるわけですがけれども、低学年にも配慮した工夫という点では、帝国書院のほうに少し分があるのかなと思います。最初に気がついたのは、冒頭の世界地図です。これは帝国書院ですが、国名は全部は書いていないのですね。確かに3年生では、全部の国名を必ずしも表す必要はないと思います。東京書籍のほうは、たくさんの国の地図、名前が載っているのですが、やっぱり3年生には少し取っかかりが悪い。それで、詳しい地図は、また巻末に出ているので全然問題ないと思います。

それと、もう一つ、低学年に配慮した工夫で気がついたのは、日本の地図。例えば帝国書院の29ページ、これは北海道の地図で、おそらく低学年用です。77ページ、これは詳しい地図です。だから、低学年、高学年にも配慮した編集の仕方だと思って、非常にいいと思います。また、先ほどの説明のあった地図の見方でも、大きなスペースに分かりやすく書いてあるので、やっぱり帝国書院はいいのかなと私は思いました。

高津委員 今の竹田委員が話しました北海道の地図2つを並べてみました。これは広く見渡す地図ということで、例えば3年生でなくても、概略をつかむのは、広く見渡す地図のほうがやりやすいと思います。

昨今地震等、自然災害が多くなってきております。それで99ページ、帝国書院の日本の自然災害と防災、これは社会の授業だけではなくて、いろいろなところで活用ができると思うので、これもとてもいいなと思いました。

それから、111ページ、日本の統計なのですが、一番右のほうに、農産物、工業生産の生産で、各都道府県の割合が帯グラフでできています。そうすると、各県の特徴がよくつかめておもしろいなと思いました。

最後ですけれども、世界地図とか日本地図、全体的に帝国書院のほうが、海もそうですけれども、淡いというか、色が薄いというか。あと海の中で、島の名前を黒で書くと、ちょっと濃い色だと見にくいなと思って、全体的に、私だけが感じるのでしょうか、帝国書院は淡い色を使っているなと思いました。なので、こちらのほうがちょっといいなと思いました。

大山委員 私のほうも、帝国書院のほうが優れていると思いました。その中で今回注目しましたのが、日本の自然災害と防災のところ。最近、自然災害がとても多いのですけれども、令和元年に千葉県でも南部で台風15号、19号、21号と続けて災害がありました。本市でも災害が起きております。授業参観に行きますと、小学校4年、5年で、防災についての勉強発表会が行われておりまして、その中でハザードマップをつくるという授業を見学したことがあります。そういう意味で、帝国書院の102ページ、防災マップづくりが載っておりました。このあたりも、今の児童たちには大変役に立つのかなと思って注目させていただきました。

小西委員 私も全く皆様と同じような意見です。導入のところは非常に

小さい児童にとって分かりやすいなと思ったのと、あとは地図マスターへの道というところが非常に興味関心を引きやすいなと思ひまして、私も帝国書院がいいかと思ひております。

鶴岡教育長 私のほうで特に着目したのは、やはり先ほど委員からもあつたように自然災害、そしてSDGs、この辺りのところがしっかり書かれているかなと。教科書でも補填はできるのですけれども、補助資料としてはあつたほうがいいかなと思ひたときに、SDGsについては帝国書院のほうがより詳しく書いてあつたかなと認識しております。

ページ数が30ページぐらい違うのですが、ここは質問なのですけれども、そこの部分、重いかありますでしょうか。お願いします。

大堀教育指導課主任指導主事 両者のページ数とグラムのほう、報告を受けております。東京書籍、102ページで352グラム、1ページ当たりになりますと3.4グラム。それから、帝国書院は132ページ、380グラム、1ページ当たりになりますと2.8グラムというような報告となっております。

鶴岡教育長 ありがとうございます。

1点、日本の伝統文化を調べたときに、東京書籍のほうは載っていたのですが、帝国書院のほうは載っていなかったのですね。よくよく調べてみたらコンテンツのほうに、各都道府県のところに伝統文化が載っていたので、こうやって説明しているのだなと思ひていたのですが、比較をするとすると、東京書籍のほうが一覧で見られるので、そちらのほうが見やすい部分もあるのかな、勉強しやすい部分もあるのかなと思ひるのが、1つありました。

総合的に見ると、やはり見やすさ、使いやすさからして、私も帝国書院のほうの方がよりいいかなと思ひました。

鶴岡教育長 ご意見も出たようですので、これより令和6年度に本市立小学校において使用する「地図」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「地図」の発行者は2者、「東京書籍」及び「帝国書院」です。

この2者から投票により決定します。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について、ご報告します。

帝国書院、5票。帝国書院が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「地図」の教科用図書は「帝国書院」と決定しました。

《算数》

鶴岡教育長 次に、小学校用教科用図書「算数」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 それでは、小学校「算数」について報告します。

17ページをご覧ください。

まず、「千葉市の指導に必要とされる教科用図書」についてですが、本市の児童の学力については、基礎的な計算や基本図形の性質・求積等の理解は良好ですが、主体的に学習に取り組み、目的に応じて具体物の操作や、言葉、数、式、図、表、グラフ等を活用しながら自分の考えを整理し、根拠を基に筋道を立てて説明することや、既習事項を活用して粘り強く問題解決に取り組むことは苦手であるといった傾向があります。

また、学習内容の系統性を大切にし、本時やその単元で育成したい資質・能力を明確にした授業づくりを行い、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るとともに、ICTを主体的に活用するなどして表現し、伝え合う活動を充実させることで、思考力、判断力、表現力等を育む授業実践に努めることが課題となっております。したがって、学びのプロセスや学び方が明示され、主体的に問題発見・解決に取り組むように工夫されていたり、数学的な見方、考え方を働かせながら対話的な学びを行うことができるように工夫されていたりするといった特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えます。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご覧ください、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、「学習指導要領への対応」の(3)については、5年下48、49ページのように、赤色の文字で「同じように考えると」、「それなら」や、虫眼鏡のマークなどを用いて、数学的な見方・考え方を介して統合的・発展的に考察できるようよく工夫されています。

「内容」の(2)については、2年下86、87ページなど、

習熟に時間を要する割合の素地となる基礎的・基本的な内容をスパイラルに学習することに重点を置き、下学年から丁寧に積み上げることができるよう、よく配慮されています。サイズは、1年生は2分冊で第1巻はA4判です。2年から5年はB5判で、2年から5年は上下巻、6年は合本です。

次に、大日本図書ですが、「内容」の(1)については、3年から6年で算数のおもしろい問題や話題などを豊富に用意したコラムが充実し、算数への興味関心を高めています。例えば5年152ページでは、災害から身を守るための備蓄品の量について考えることを通して、防災・安全に目を向けることができるようにするなど、よく工夫されています。サイズは、1年生は2分冊、第1巻はA4判です。2年から6年はB5判で学年1冊の合本です。

次に、学校図書ですが、「学習指導要領への対応」の(1)について、2年上12、13ページのように、導入では学習内容に合わせたストーリー性のあるイラストで問題を設定し、興味を喚起するとともに課題意識を持たせ、自力解決、対話、まとめ、そして最後にまた「はてな」という流れで次につなげ、問題解決型の学習の充実を図っている点が特に優れています。サイズは、B5判より横幅が長く、1年から5年は上下巻があります。6年は学年1冊の合本で、別冊「中学校へのかけ橋」があります。

次に、教育出版ですが、「学習指導要領への対応」の(1)について、2年上2、3ページのように、巻頭で問題発見・解決・追求のプロセスを示し、全巻を通じて数学的活動の過程を「はてな?」、「なるほど!」、「だったら?」という問いの連続で構成し、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、よく工夫されています。

「内容」の(3)については、3年下101ページのように、学校の校舎の高さについて考える課題を設定し、日常生活の中で学習したことを活用していけるよう、よく工夫されています。サイズはB5判で、2年から4年までは上下巻があり、1・5・6年は学年1冊の合本です。

次に、啓林館ですが、「学習指導要領への対応」の(1)については、2年上6、7ページのように、2年から4年までの上と、5・6年の全てに算数の学習の進め方があり、課題を協働的に解決する学習の進め方を示しています。また、全ての主問題に「め

あて」と、それに対応した「まとめ」が具体的に示され、主体的に学習に取り組めるよう、よく工夫されています。

「内容」の（４）については、６年２４６ページのように、全学年の巻末に「もっと練習」があり、基本問題と挑戦問題が用意され、個に応じた確実な学習内容の定着が図れるよう配慮されています。サイズは、１年は２分冊、第１巻はＡ４判です。２年以上はＢ５判で、２年から４年は上下巻があります。５・６年は学年１冊の合本です。

最後に、日本文教出版ですが、「内容」の（４）については、６年２５１ページのように、児童の実態に応じて柔軟に取扱いができる多彩な問題が用意されています。「しっかりチェック」、「ぐっとチャレンジ」、「もっとジャンプ」の３ステップになっており、習熟度に応じて発展的・探究的な問題にも取り組めるよう、よく工夫されています。サイズはＢ５判で、１年は２分冊、２年から４年は上下巻あります。５・６年は学年１冊の合本です。

以上で、小学校「算数」の報告を終わりにします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。
高津委員 質問２つです。

まず、今学習している算数が日常の生活に使えるのか、使うことはあるのというのが問われます。それで、「日常生活でこんな場面に習った算数が使えるよ」というのがあったら、１つは先ほど紹介していただいたのですが、まだあったら教えてください。

黒木教育改革推進課指導主事 どの者も日常生活の場面から問題を発見できるよう構成されており、また、SDGsの話題を取り上げるとともに、日常生活に関わる単元の導入であるとか、生活に活用する問題を掲載するなど工夫をしております。

そのような日常生活に活用する問題としましては、各者ありますが、例えば東京書籍で言いますと、３年の下１１ページの生かしてみよう、ほかには大日本図書では、おうちで算数、３年の２１２ページなどがあり、家庭でも算数を日常的に使うというような工夫がされているように報告されております。その他、各者でもそのような問題を扱っております。

高津委員 ありがとうございます。各者でいろいろ取り上げているということで了解しました。

では、もう一つ、もちろん算数というのは個人差があるのですが、好き嫌い、これが大きく開く教科だと思います。その一つに、

一つをつまずきがあると、その先へ進めないということが、例えば小学校で、ここでつまずいてしまうと、中学校になってこれ以上進めないというのがよく起こります。

そこで、小学校の算数の中で、児童たちがよくつまずくという単元とか領域があったら教えていただきたい。また、そこにつまずかないように、この教科書はこうやってうまくやっているというのがあったら教えてください。

黒木教育改革推進課指導主事 特に小学校の算数の中でつまずくことが多いとされているところの一つに、割合の学習が挙げられると思っております。割合につきましては、今回の学習指導要領より、4年生から「簡単な場合の割合」ということで取り上げられており、各者とも4年生については対応をしております。

例えば教育出版では、比べ方というような単元を4年生に設定をして、簡単な割合を取り上げております。

また、4年生の割合ですけれども、東京書籍や大日本図書、学校図書、日本文教出版などは、特に下学年のほうから、割合につながる素地となる倍の概念であるとか、そのような学習を系統的に位置づけている点が工夫されているというように報告を受けております。

また、啓林館、東京書籍に関しましては、割合を求める三用法、それらを関連づけ、一つの単元にまとめて、理解が深まるように配慮をしています。

学校図書につきましては、問題文の構造を捉えやすくするために4マス関係表というものを一貫して使用しているなどの工夫が報告されております。

高津委員 ありがとうございます。

小西委員 ご説明ありがとうございます。

専門的なところが分からないので教えていただきたいのですが、例えば面積を三角形から教える者と四角形から教える者であったり、あとは分数から小数にいく者と、小数から分数にいく者と、いろいろ教える順番が違うというところがあると思うのですが、児童たちにとっての学びやすさや分かりやすさという点で、教える順番において何か各者の特徴があれば教えていただけますでしょうか。

黒木教育改革推進課指導主事 児童たちにとって、学びやすさという点におきましては、児童の実態によっても違うところがありますので、必ずどちらがいい

ということはなかなか言えないということがあります。

その中でも、特に特徴的な例としましては、啓林館が、5年生の面積の学習において三角形を求める、そこから導入を始めて平行四辺形の四角につなげるというところがありました。ほかの者につきましては、平行四辺形を先に学び、その後三角形につなげていくというのがあります。

特に三角形を先に学ぶよさというところにつきましては、どんな多角形でも必ず三角形に分割できるということ、身の回りには平行四辺形のものあまりなくて、その最も有用性の高い三角形から始めるということが大事だとされているところがあります。

平行四辺形を先に学ぶよさとしましては、等積変形がしやすいということ、また平行四辺形の面積を使って、その半分が三角形になると、三角形の公式が導きやすいというようなことがあります。

どちらが必ず優れているというのではないということで、その児童の実態によってどちらかということになっていると思っております。

鶴岡教育長 私のほうから質問させていただきます。2点あります。

国語のときにも聞いたのですが、やはり分冊、合本というところで、各者かなりの違いがある教科かなと思っております。国語とともに毎日学習する教科であるがゆえに、持ち帰って予習復習につながる教科かなと思うのですけれども、分冊、合本というところで何か議論があったら教えていただきたいのと、学校図書の「中学校へのかけ橋」というのは特徴的なのかなと思います。この「中学校へのかけ橋」について、どう捉えるかというところの見解を教えてほしいと思います。

黒木教育改革推進課指導主事 まず、合本と分冊というところですが、大日本図書が1年生は分冊であります、そのほか2年生以上が合本ということになっております。その他の各者につきましては、6年生は各者とも合本となっており、4年生が合本になっているのが教育出版、啓林館、日本文教出版ということになっております。

先ほどの社会でもありましたけれども、学びを1年間振り返って、既習をもう一度思い出したりなど、そういうようなところで振り返るという面におきましては、合本のほうが、振り返りがしやすいということがあります。

ただ、算数の内容が、学年が上がるにつれて特に多くなっていくということがありますので、重さという面に関しましては、分冊のほうが児童たちは扱いやすいという面もあります。

その後のもう一つのご質問ですけれども、学校図書につきましては、特に6年生で、この者だけ「中学校へのかけ橋」という別冊がついております。こちらにつきましては、前半部分に関しましては、これまでの学習、使ってきた考え方などをまとめて復習ができるようになってきているような内容になっております。後半につきましては、発展ということで、これは必ず全員やらなければいけないというものではなく、学習指導要領外のものになりますけれども、中学校へ接続、つなげるということで、中学校へつながる内容を学ぶことができるということで、そちらが特に充実した内容になっております。ほかの各者につきましても、同じようにこれまでの考え方、図をまとめてあったりとか、中学校へつながる学習というのほどの者にも共通しておりますが、学図に関しては、このように分冊にして特に充実をしているという報告を受けております。

鶴岡教育長 もう一点質問があります。

先ほど国語のときにも言ったのですが、本市の児童の実態をしっかりと捉えたいという部分で、学力調査等から、本市の児童の課題は、数と計算と図形というところが若干苦手意識があるかなというのを把握しているところなのですが、その課題に向けて、工夫・改善しているような者があれば、幾つか紹介してもらいたいと思います。

黒木教育改革推進課指導主事 まず、数と計算のほうですけれども、問題解決の結果だけではなく解決の過程、それから事象の根拠、具体物や図、数式などを用いて表現する活動というのが特に重要であると思っております。また、図形の学習に関しては、観察、構成などの活用を通して、図形の意味を理解したり、図形の性質を見つけたりする、そのような活動が重要であると考えております。

そのような活動に関しましては、どの者もこれらの活動を特に多く取り入れており、また各者とも、学力状況調査の結果等を生かして、どこがつまづきやすいか、そのようなところに対応して復習できるように構成されているものが、どの者にも工夫されております。

また、二次元コードにより、計算の仕方についての解説動画、

練習問題が充実していたり、図形に関しましては、実際に切ったり動かしたりというようなところをできるコンテンツというのが多数用意されております。特にそれらの二次元コード、多数用意されているものが東京書籍、大日本出版、それから啓林館というように報告を受けております。

鶴岡教育長 ありがとうございます。

竹田委員 高津委員がおっしゃったように、算数は積み上げていって、一つ一つクリアしていかなければいけない教科だと思います。そのように、単元ごとの理解が非常に重要だと思うのですが、先ほど5年生の割合のお話が出ましたが、実は3年生のところで割合の基礎になるような割り算、分数、小数の授業が出てくるのですが、これも理解しないと、やっぱり割合のところで、またためらってしまうというか、たどり着けなくなってしまうのですね。

それで、いろんな工夫が必要だと思いますけれども、私は見えて、やはり啓林館と東京書籍のどちらかかなと思います。例えば3年生で二桁の掛け算というと結構大変ですが、例えば啓林館、3年生の下、P86ですが、普通、この二桁の掛け算というと、おはじきとかキャラメルとか、いろいろなものが、ものすごい数出てくるのですが、この場合はミカンをわずか34個だけで、この二桁の掛け算を表しているので、非常にその辺りは分かりやすくてすっきりしていると思います。

あと、3年生の割り算でも、啓林館のほうが非常にシンプルで分かりやすかったのですが、ただ、啓林館のほうは誤植があると思います。啓林館の3年生の上のP20、ここに割り算の式が出てくるのですが、真ん中の辺りの式というところ、この黒板のところですね。「 $12 \div 3 = 4$ 」で、その上の文字のところは「 $12 \div 3$ 」を式と言っているのですね。式といっても、上のほうは「 $12 \div 3$ 」を式と言っているし、黒板のほうは「 $12 \div 3 = 4$ 」、これを式と言っているので、多分上のほうの「 $12 \div 3$ 」というのは、これは「 $=$ 」をつけないと式とは言わないと思うのですね。それで、各者のところを全部見ると、式としては必ず「 $=$ 」が出ていますので、多分これは抜けたのか、誤植なのか、その辺は少し残念なところだと思います。割り算のことは非常に分かりやすく書いてあるので、もし啓林館を採用するのであれば、訂正が必要だと思います。

あと、6年生で反比例というものが出てくるのですけれども、6年生は初めて x 、 y の文字式が出てくるのですが、反比例に関しては6年生なのですが、正比例は5年生で出てくるのですね。ただ、啓林館と東京書籍のほうは、改めて正比例をもう一回、約20ページ、17ページぐらいにかけてきちっともう一回復習しているので、非常に正比例、反比例のことが分かりやすくなると思います。

ただ、これも誤植がありまして、啓林館の6年生のP158。どこが誤植かといいますと、 x と y が逆だと思えます。まとめのところにいろいろ書いてあるのですけれども、 x の値 \div y の値、これはそんなことはないので、 $y \div x$ の値。それで、その上のリコちゃんという子どもも、「 y の値を x の値で割る」と言っていますし、その右のページのハル君も「 y の値 \div x の値=決まった数」と言っているのに、このまとめでは x と y が逆になっているので、もし啓林館を採用するとすれば、訂正を申請したほうがいいと思います。

鶴岡教育長 訂正の点について、見解等ありますか。

黒木教育改革推進課指導主事 式に関してですけれども、「 $12 \div 3$ 」というところがありましたけれども、「 $=$ 」をつけないという形で、一応こちらのほうはフレーズ型の式というふうに呼んでいまして、それで「 $=$ 」をつけた「 $12 \div 3 = 4$ 」というのはセンテンス型の式ということで、どちらも一応式ということですのでけれども、ただ、この時期の児童に関しまして、そのような言葉、混同してしまうというのがあると思いますので、そのあたり一貫してやはり指導していくということが大事だと思います。

鶴岡教育長 x 、 y についても。

黒木教育改革推進課指導主事 x 、 y につきましては、こちらは誤植だと思えます。

高津委員 分冊か合本にするか、これは例えば社会は歴史と地理の2つを分けたように、国語も前後分けたりできますけれども、数学は続きなので、例えば図形と数式、計算、そういうふうに分けて、補充問題などの問題も分けなきゃいけないので、恐らく5・6年になると分冊というのは難しくなるのではないかと思います。感想です。

鶴岡教育長 他に意見も含めて、いかがでしょうか。

高津委員 初めに割合ということで、私も経験上、中学生を教えるときに、やはり中学校も割合が出てくるのですけれども、つまりいてしま

い、そのまま上がってきた生徒が多かったです。

啓林館の割合について、5年生の(1)、(2)で、(2)のほうは、先ほど竹田委員が簡単な数字から、一桁の数字から、スペースを割いて割合のところの説明をして、とても分かりやすく見られました。とても丁寧でした。

ほかには、先ほどもう出てきたのですが、学びのサポートで、「もっと練習」で、本当に簡単なものから高度なものまで挑戦させるということで、これも大変よいなと思いました。

あと、プログラミング、これは2年生から登場しますし、わくわくSDGsは、これは環境とか食糧問題、多様性を数学として捉えて、SDGsと算数を一緒にして投げかけている、とてもこれはよいなと思いました。

それから、先ほど算数はこれからの社会とか、あるいは日常で使えるのというのを、これを小学生に見てもらえるといいなと思いました。「未来への扉」ということで、4人か5人のお仕事インタビューの掲載が出ています。昔習った事が今役立っているよという内容で、ぜひ、算数が役立つのかという児童がいたら、これは6年生ですから、4年生、5年生は見られないのですが、見せてあげたらいいなと思いました。

小西委員 私も意見ですけれども、私も啓林館と東京書籍がいいなと思っています。初めて算数を学ぶ1年生の導入の部分については、啓林館と東京書籍がダイナミックな写真や絵であったりとか、ブロックをそのまま同じ、実物大の形でマスが書かれているので、普段の生活や遊びからすんなり算数に入っていけるだろうなと感じました。

あと、この2者がやはり4年生からつまずきやすい割合のところを、2年生や3年生から割合の三用法を丁寧にスパイラルで教えているというような感じを受けましたので、つまずかないように配慮されているなというふうに感じました。

あと、強いていうのであれば、啓林館の二次元コードを拝見したのですけれども、動画の内容が非常に丁寧な授業動画になっておりまして、本市で今、小学校の不登校児童が増えたり、学力の二極化が進んでいるところなので、学校の授業以外での学びの保障であったりとか、あとは学び直しができるという点で、啓林館のほうがよりよいかと考えております。

大山委員 私は東京書籍の方が良いかと思ったのですけれども、つまず

きやすい割合を全ての教科書で比べさせていただきました。東京書籍のほうは、2年生以上で倍や割合に関する内容を丁寧に積み上げていまして、4年生では7ページにわたり問題と説明があり、一番丁寧に配慮があるなという感じで見せていただきました。

鶴岡教育長 私も、意見を言わせていただきます。

先ほど質問をしました数と計算並びに図形、そしてつまずきやすいと言われる割合については、啓林館と東京書籍が二次元コードをうまく使いながら丁寧に説明できるようにしていました。

あと、導入時に興味関心を持たせるという点では、学校図書がおもしろいつくりだったと思いました。

以上、この3点から選びたいと思っております。

鶴岡教育長 他にご意見、ご質問等ございませんようですので、これより、令和6年度に本市立小学校において使用する「算数」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「算数」の発行者は6者、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「新興出版社啓林館」及び「日本文教出版」です。

この6者から投票により決定をします。事務局より投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果についてご報告します。

東京書籍、1票、新興出版社啓林館、4票。新興出版社啓林館が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「算数」の教科用図書は、「新興出版社啓林館」と決定しました。

《理科》

鶴岡教育長 次に、小学校用教科用図書「理科」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 それでは、小学校「理科」について報告します。

21ページをご覧ください。

まず、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」についてですが、令和3年度千葉市学力状況調査結果報告書によれば、3学年、5学年とも「理科の学習がわかる」と回答した児童の割合は9割を超えています。しかしながら、3学年が知識・理解及び思考・判断・表現の観点で、5学年では主体的に学習に取り組む態度の観点で県平均を下回っています。これらの結果を受け、今後の改善の課題を「児童自らが問題意識を持ち、気づきや発見を大切にすること」など、問題解決の重要性を中心とした具体的な方策を挙げています。

したがって、本市の児童が必要とする理科の教科用図書の選定条件については、報告書にあります6つの特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えます。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご覧ください、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、「学習指導要領への対応」の(1)については、3年6ページのように、これまでの学習で身につけた知識を結びつけながら話し合う活動を単元の導入で行う流れとなっており、主体的に問題解決ができるよう、よく工夫されています。

「内容」の(4)については、デジタルコンテンツが豊富で、6年91ページのように、二次元コードを読み込むことによって、ドローンを使った撮影による動画を見ることができるようになっています。サイズはA4判の1冊です。

次に、大日本図書ですが、「内容」の(1)については、4年2、3ページのように、全ての学年、全ての単元で「問題解決の活動」に基づいた構成になっており、思考力・判断力・表現力の育成において特に優れています。

また、(2)については、4年211ページのように、既習内容を振り返ることができるコーナーを設け、系統的に学習を進めることができるようよく配慮されています。サイズはA4判の1冊です。

次に、学校図書ですが、「学習指導要領への対応」の(1)については、4年138ページにあるように、各単元において、必要感のある実験や観察が提示されていたり、実感を伴った理解につながるよう導入が工夫されていたりする点が特に優れています。サイズはA B判の1冊です。

次に、教育出版です。「内容」の（４）については、５年２９ページのように、児童の思考が深まるようにノードづくりを意識して構成されている点が特に優れています。サイズはＡＢ判の１冊です。

次に、信州教育出版ですが、「内容」の（１）については、４年５０、５１ページのように、科学に関する資料や発展教材が充実しており、学習活動の質を高めながら学習サイクルの確立を図ることができるよう、よく工夫されています。サイズはＡＢ判の１冊です。

最後に啓林館ですが、「内容」の（１）については、３年１１３ページのように、確実に実験が進められ、よい結果が得られる内容、手順や新しい器具・材料の使用が提案され、児童が実感を持って問題解決学習ができるようによく工夫されています。

「造本」の（１）については、６年４３ページのように、二次元コードで「協働的な学び」をサポートするインタラクティブコンテンツと「個別・最適な学び」をサポートする資料・学習系コンテンツが充実し、よく工夫されています。サイズはＡＢ判の１冊です。

以上で小学校「理科」の報告を終わりにします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

高津委員 実験についてです。実験で、よく器具とか薬品の扱いで、時々児童たちがけがをしてしまうというような報告があったりしますが、安全な実験をするために、児童目線で見分りやすく書かれている教科書はありますか。

渡邊教育指導課指導主事 安全面については、各者工夫が見られます。

学校図書においては、活動中に起こると考えられるものや、地震などの際に理科室でとるべき行動など、注意と対応が明記されています。

教育出版は、裏表紙に理科の安全の手引きとして、観察、実験を行う際の注意、危険事項を掲載しています。

信州教育出版は、「楽しい理科室」のページを設けたり、安全保持に関わる部分には注意マークや注意文を示して危険防止を図ったりしています。各者工夫が見られます。

高津委員 ありがとうございます。

大山委員 理科に関しては、授業参観で、児童たちが実験に関しては大変楽しそうにやっている風景をいつも見るのですが、高学年になる

と、好き嫌いが大変はっきりする教科だと思っております。どのあたりの題材からついていけないというか、嫌いになってしまう児童たちが多いのか、また、そのあたりを工夫している教科書がありましたらご教示いただければと思います。

渡邊教育指導課指導主事 本市の児童たちは、理科については「分かる」という回答とともに、「好き」と答える児童が比較的多いとは感じているのですけれども、児童たちによって、やはり差が見られるということと、やはり高学年になっていって差が見られるということもあるかと思えます。

どうしても理科の場合は、実物も使っているのですけれども、抽象的な概念になるような、目に見えないものを扱ったりすることがあるので、なかなか実感を伴った理解につながらない部分も出てくる教科の特性があるかと思えます。例えば6年生で水溶液の学習ですと、同じ無色透明の水溶液で性質が違う水溶液があるといったところで、なかなか理解が難しくなるところもあるかと思えます。

そういった点で、問題解決という意味で工夫が見られるというか、充実しているなというところについては、大日本図書と東京書籍が特に工夫されているといった報告を受けております。問題や実験方法の立案まで、およそ見開きで見られる構成となっているページが多かったり、結果や考察の場面は次のページに掲載していて、考察を自分たちで考えることを促す構成となっており、そういったことの工夫が見られるという報告を受けています。

どの者も問題解決がスムーズにいくように工夫されております。

鶴岡教育長 私のほうから、学校現場の現状を教えてもらえたらと思うのですけれども、他の教科と比べて、私の中では二次元コードが理科は非常に多いなと思って、情報量がすごく多くてよい面もあり、実はこれに頼るような傾向があるとどうなのかなと思います。要は、本市は理科の専科教員であったり、実験とか何かを実際にやってみて、見てみて、感じてみてということを繰り返しやって理科を伸ばしているのですけれども、この二次元コードが多過ぎるがために、これを見せればいいやという授業になってしまうと、それもどうかなと思いました。そのような話が、検討であったかどうか、あればその話を聞かせていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

渡邊教育指導課指導主事 教科書の採択に関わるところで話し合われた内容としては、本市は常に実物を第一に、それを基に考えていく、観察、実験を通して考えていく、そういう問題解決を大切にしていける必要があると話し合いが行われました。

その中で、二次元コード、各者工夫が見られるのですけれども、例えばメダカの卵が孵化する瞬間ですとか、なかなか観察だけでは実際に目にすることができないような場面ですとか、そういったことについては動画を見たりということで、観察、実験の補足をしたりすることもできるということで、あくまでも目の前の観察、実験を大切にしながら、二次元コードを使った動画やインタラクティブコンテンツ等を生かして学びを深めるということで進めていくのがいいのではないかとということで話し合いました。

鶴岡教育長 分かりました。

本市のスタンスの確認をしたかっただけの質問なのですが、学習状況調査を見ると、本市の児童は、他市他県と比べて、理科が大好きという児童がとて多いです。それは理科専科の先生方や、実際にやってみて、見てみてということを繰り返してきたので、恐らく理科が大好きだという児童が多いと思っているのですけれども、やはりそこは大事にしつつ、でも、補填として二次元コードがあるのだよという捉えでよろしかったというところの確認でよろしいでしょうか。

渡邊教育指導課指導主事 はい。

八斗教育指導課長 二次元コードについてですけれども、理科だけに限らず、この扱いについては、今後教育指導課として研究をしていきたいと思っております。

鶴岡教育長 ありがとうございます。

小西委員 1点確認ですけれども、児童たちの学びやすさという観点で考えたときに、必ずしも小学校の出版社と中学校の出版社が連続をしていなくとも、大きな支障はないということの理解で、そういう前提でよろしいでしょうか。

渡邊教育指導課指導主事 大きな支障はないと理解していただいて構いません。

鶴岡教育長 他にご意見等も含めて、いかがでしょうか。

竹田委員 理科では実験が大分出てくるので、ある意味では教科書は大きいほうがいいと思うので、そういう観点では東京書籍か大日本図書だと思っております、実際選ぶのもこの2つで今迷っているのですけれども、理科というのは目に見えないものを何とか可視化さ

せる工夫が必要だと思うのですね。例えば音とか電流とか、そういうのが出てくるのですけれども、そういうものを可視化するのでいろいろ工夫しているのは、やはり東京書籍と大日本図書だと思います。例えば、音が振動だということを分からせるのに、いろいろな教科書はトライアングルを叩いて、触れて、震えているねとあるのですけれども、東京書籍はもう一工夫して、その下に紙を貼りつけて、紙が震えているのを可視化させる、そういうような工夫をしているので、なかなかそれはすごいと思います。

あと、丁寧さというのも大事だと思うのですけれども、5年生の回路の単元で電磁石が出てくるのですね。最後のほうに、どんな教科書もモーターのお話が出てくるのですけれども、大抵の教科書はこんなモーターがあります、というものなのですけれども、東京書籍と大日本図書は、モーターの動く仕組みまでちょっと突っ込んで書いてあるので、これはその後の学習の発展に役に立つと思います。

あともう一つ、見て分かるという点も非常に大事だとは思っているのですけれども、昆虫の観察で触角というのがあるのですけれども、見て分かるのは信州教育出版と大日本図書なのですけれども、触角は図には出ていても、「触角」の「触」の字も出てこない、文字が出てこない教科書も2社ぐらいあるのですね。児童たちは、昆虫を観察していると必ず触角というものがあると思うのですけれども、それについて何も触れていないのはやっぱり少し変だなと思います。そういう意味では、詳しく書いてあるのは信州教育出版と東京書籍と大日本図書だと思います。

あともう一つ、自分の仕事の上で関係しているのですけれども、5年生に人体で胎児の写真が出てくるのですね。大日本図書の子宮の様子が出ている164ページを見ていただきたいのですが、大抵の教科書は胎盤のこと、へその緒のこと、あと羊水のこと、この3つしか出てこないのですけれども、ところが、大日本図書は下のほうに何が書いてあるかというと、子宮の中で胎児は息をしていない、生まれた後、すぐに泣き声を上げて息をする。だから、この羊水の中で胎児は何で死なないのだろう、そういう発想が出てくると思うのですね。次の学習につながる。それで、一番下、尿と便と書いてあるのですね。生まれる頃の羊水はほとんどが胎児の尿だと書いてありますね。便は生まれた後にすると。児童たちが興味を持ったり、不思議だなと思うことが次の学習に

発展するような書き方をしているのが大日本図書だと思います。

そういう意味で、東京書籍かどちらか考えて、大日本図書かなというふうに私は考えています。

高津委員 どの教科書も工夫を凝らしてできていると思いますが、私も特にと言われると大日本図書と東京書籍かなと思います。

まず、大日本図書のほうは、2ページから3ページの理科の学び方、それで授業の流れ、流れの中で、学年ごとにここに力を入れようとか、子どもたちにとっては分かりやすく説明がされております。

それから、実験、観察をするときに、イラストの子どもたちが会話をするのですよね、これは何とか何とかって。「じゃあ、これはおかしいね」として予想を立てて、実験して結論まで、ということで、子どもの目線で流れているような気がしました。

東京書籍ですけれども、各単元の始まりがレッツトライで、下に書いてある「ここは何とか何とかにしよう」と、目標を出して始まっています。それに関わる写真とかイラストがあり、子どもたちは興味深くそこに入っていけるのではないかなと思いました。最後に「振り返ろう」、「確かめよう」で定着を図っております。

おもしろいなと思ったのは、その後に、さっきの算数ではないのですが、この単元で学んだことがこんなところに活かされているとか、分からないけれども、ここがこうなっているのだというのが出てきます。単元の終わりがそのようになっていますから、これは子どもたちも興味を持って見ていけるのではないかと思います。

それから、竹田委員が言われましたA4サイズのことですね。ノートづくり、理科では実験のノートづくりが大切だと思います。特に低学年のうちから習慣づけができないと、そのまま高学年で観察ノートが書けないとなるのですが、どの教科書にも3年生のときにノートづくりが書いてあります。ノートの取り方、ノートの書き方、ノートのまとめ方、そこが出ているのですけれども、やはりA4判が大きいことによって、やはりそのノートづくりが見やすいなということで、ここでも東京書籍と大日本図書が分かりやすいかなと思いました。

小西委員 意見ですけれども、写真がダイナミックで見やすくて興味を引きつけられやすいという点と、あとはデジタルコンテンツが豊

富という点で、やはり東京書籍と大日本図書の2者が特によいなというふうに考えました。

結論としては、私は大日本図書のほうがよいのではないかと考えております。

理由の1つ目ですけれども、理科の学び方の部分なのですが、両者とも非常に工夫がされていて、東京書籍は一本のラインの学びの流れが書かれていて、上から下へ自然な目線の流れで学べるようにはなっていないのですけれども、私自身、理科が得意ではないのですが、東京書籍の場合、予想とか計画が飛ばされているような単元があって、問題解決の過程の示し方が単元によって少し異なって見えてしまうところがあって、この点、大日本図書は全ての単元で、きちんと予想や計画の過程も省略なく非常に丁寧に書かれていて、理科が苦手な人間にとっては、大日本のほうが理解しやすいのではないかなと考えました。

あと、2点目ですけれども、本市の課題として、子どもたちが自ら気づき、発見し、自ら問題解決をしていけるような教科書というところを中心に見たのですが、例えばですけれども、東京書籍、6年生の91ページに大地のつくりというところがあり、大日本の6年生の125ページにも同じように大地のつくりとあるのですが、東京書籍のほうは屏風ヶ浦の写真のみで、大日本のほうが、いすみ市や山梨県の資料も併せて掲載されていて、やはり比較することで、単元の最初の写真から、児童たち自身が地域によって何が違うのだろうという疑問を持ちやすいかなと感じました。また、同じように6年生の月と太陽、東京書籍だと79ページ、大日本だと95ページなのですが、同じような写真が掲載はされているのですけれども、大日本のほうが太陽の位置がはっきり書かれていて、太陽と月の関係について、比較することによって、児童自身が、太陽があるほうが月が明るく見えていると、輝いて見えているねということが、ぱっと写真だけから気づきやすいなと思いました。こういった部分が大日本のほうが多いかなと感じました。

3点目は、児童たちが、教科書をこえて科学館であったり、博物館のほうに足を伸ばしてほしいなというふうに思っているところなのですけれども、その点、大日本のほうが巻末であったり裏表紙に数多くの博物館、科学館の紹介、ジオパークの紹介がありましたので、そちらも好印象でした。

以上から、大日本のほうがいいかなと思っております。

大山委員 皆様と同じで、大日本と東京書籍を見比べました。私は3年生の最初の昆虫の育て方、そちらのほうを比べさせていただいております。私、あまり虫が好きではないものですから、多分児童の中にも苦手な子はいると思うのですけれども、大日本の昆虫は大変リアルでして、意外と見たことがない児童もいると思うのですね。そういう意味で、幼虫とかのところが大変リアルに写真が出ておりました。両者とも、その結果を見せて、その後また昆虫の育て方、その後にもまた分かったこと、まとめと、両者ともその辺りはすばらしい詳しさがあるなと思っております。その両者で私のほうは悩んでおります。

鶴岡教育長 私も意見を言わせていただきます。

私も大日本と東京書籍と捉えております。両者とも問題発見からまとめ、そしてまとめた上で、さらに分かったことを広げるというつくりになっていて、ほかの者もやっているのですが、その補充・発展学習というのが非常に充実しているなと思いました。

加えて、先ほどから申し上げているように、私、初めというのをとてもこだわって教科書を見ています。要は小学生、本市の児童だけではないのですけれども、生活科から社会科、理科へ発展していくのに、学力・学習がつかずくのが実は3年生が多くなっています。となると、この社会科の位置づけ、理科の位置づけというのはとても大事で、もっと言うと、そのスタート時がとても大事だと思っております。具体的に、3年生のスタート時のところを特に着目して見たのですけれども、種まきであったり、虫、チョウの観察、育て方等の部分では、やはりこの2者が抜群に興味をそそるつくり方になっていたなと思いました。

二次元コードで、少し見方が違うのかなと思いつつ、私の直感で言わせていただくと、大日本は、単元名を選んでから中に入っていくというつくりになっているので、直でそれが見られるのじゃなくて、一々単元を選んでというふうな選び方をしなきゃいけないので、そこは遠回りになっているなというつくりになっているのが、残念でした。

あと、東京書籍のほうは、字幕を出す、出さないが選べる、そして字幕の字がとても大きい。遠いところから画像を見る、または耳が聞こえない不自由な児童が映像を見る等々のことを配慮

すると、そういったところなども細かい配慮かと思うのですけれども、そういった部分でも多少工夫があるのだろうなといった見方をさせていただきました。

鶴岡教育長 他にご意見ありませんようですので、これより令和6年度に本市立小学校において使用する「理科」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「理科」の発行者は6者、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「信州教育出版社」及び「新興出版社啓林館」であります。

この6者から投票により決定します。事務局より投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告をします。

東京書籍、2票、大日本図書、3票。大日本図書が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「理科」の教科用図書は、「大日本図書」と決定しました。

鶴岡教育長 ただいまの時刻は14時55分であります。議事の途中ですが、ここで休憩を挟むこととします。

会議の再開は、10分後の15時5分とさせていただきます。では、休憩とします。

<休憩>

《生活》

鶴岡教育長 会議を再開します。

小学校用教科用図書「生活」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 小学校「生活」についてご報告します。

27ページをご覧ください。

まず、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」についてですが、本市の児童の実態として、自己肯定感が低く、自分の思いをうまく表現できない、経験不足により友達との関わりが苦手と

いった傾向があり、低学年の児童においては、幼児教育で培った経験を小学校教育の学びに円滑につなげ、気づきの質を高めること、主体的な学びの継続へとつながる単元構成の工夫と表現活動の工夫、ICTの効果的な活用が課題となっております。

したがって、幼児教育との接続を意識したスタートカリキュラムの工夫がなされ、主体的な学びにつながる導入と、体験活動や表現活動が工夫されているといった特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えております。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご覧いただき、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、「学習指導要領への対応」の（１）については、下12、13ページのように、挿絵のキャラクターを用いた吹き出しを活用し、学びの過程や目指す姿が分かりやすく示してあり、よく工夫されています。「内容」の（２）について、下44、45ページのように、これから始まる活動への思いを喚起できるように、単元の初めに躍動的で生き生きとした写真を見開きで掲載しており、児童の興味関心が高まるようよく工夫されています。サイズはA4判の1冊です。

次に、大日本図書ですが、「学習指導要領への対応」の（１）について、上50、51ページに見られるように、単元の導入ではダイナミックな写真を用いて、児童の主体的な活動が始まるようよく工夫されています。「内容」の（１）については、上70、71ページ、自分も一緒に虫眼鏡でバッタやコオロギを見ているような構図になっており、諸感覚の活用を促すものを盛り込み、体全体を使って直接対象に働きかける生活科特有の学びができるようによく配慮されています。サイズはA4判の1冊です。

次に、学校図書ですが、「内容」の（４）については、下86から89ページのように、二次元コードを読み取ると、おもちゃの材料や作り方を動画で見ることができるようになっており、児童の思いや願いに応じられるよう配慮がなされ、学びの深まりや活動の広がりが期待できるようによく工夫されています。サイズはA4変形判の1冊で、縦が2センチほど短いです。

次に、教育出版ですが、「学習指導要領への対応」の（１）について、上15ページの「発見ロード」では、子どもたちにも人気のキャラクターが素朴な疑問や驚きなどをつぶやき、楽しく学習できるようになっています。教科書を貫く「発見ロード」は気

づきのヒントとなり、主体的・対話的で深い学びへと導くようによく工夫されています。「内容」の(1)については、下5ページにあるように、各単元の導入に、児童が興味関心を抱くような「わくわくすいっち」が設けられています。学習の動機づけを図ったり、学習過程を「自分でできる」「考える」「伝える」「挑戦する」といったサイクルで繰り返し表したりと、見通しを持ち、発展的な学習ができるようよく工夫されています。サイズはA4判の1冊です。

次に、信州教育出版ですが、「学習指導要領への対応」の(2)については、上112ページに見られるように、体験に関わる歌や詩、文章が効果的に活用されており、他教科と関連づけた学習の中で言語能力が高められるようによく工夫されています。サイズはAB判の1冊です。

次に、光村図書ですが、「学習指導要領への対応」の(1)について、下30、31ページのように、学習過程において大切になる考え方や活動、表現方法のヒントを示し、主体的・対話的で深い学びにつながるようよく工夫されています。サイズはA4判の1冊です。

最後に、啓林館ですが、「学習指導要領への対応」の(1)については、上66ページから見られるように、全ての単元を「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で構成し、活動の繰り返しと学びの連続性を大切にしています。各単元の見開きページに、活動へいざなう言葉と活動の気づきの言葉が配置されており、思考が連続するようよく工夫されています。サイズはAB判の1冊です。

以上で小学校「生活」の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

大山委員 ご説明ありがとうございました。

生活科に関しましては、新1年生が一番最初に楽しくわくわくする勉強となりますので、多くの会社で作成されているのかと思いました。

参考に、義務教育の一步となります自立の生活を身につけるために、特徴がある教科書がありましたら教えてください。

吉野教育センター指導主事 どの教科書も、そういった特徴はあります。その中でも、大日本図書では、身の回りの人や自然に対して心を開き、何でだろう、やってみたいと思うような子どもの原動力を促す導入、そして躍

動感のある写真を用いて児童の好奇心を促しております。その中で児童の思いや願いというものが生まれ、自分なりの目当てを持ち体験活動を行っていきます。

目当てや振り返りを書き込み、心の動きを表現しておくことができるため、毎時間、そして单元ごと年間を通して振り返り活動ができるようになっております。それにより満足感とか成就感、自信ややりがいを感じることができ、次の活動を生み出していくような自分だけの教科書づくりができます。そういった点では、自立という面で優れていると思います。

次に、東京書籍については、生活科の学びが見えて、自己肯定感を育めるように1つの单元が5つの構成となっております。单元扉では、ダイナミックな写真で興味関心を高める。導入では、児童へ投げかける言葉によって思いや願いを持つ。学びのプロセスのページでは、紙面の下側にイラストを用いて学習活動や思考の流れに沿って具体的に例示がされております。深い学びでは、具体的な掲示物や板書例、学びを深めるコーナーが設けられ、気づきの質が高まる姿を具体化するような過程の挿絵、そして振り返り、表現のページには、多様な表現方法も掲載することによって児童の思いや願いを表現することができ、発達段階に合わせた方法や内容も2年間を通して高まるよう配慮されております。

小西委員 1点教えていただきたいと思うのですが、本市の生活科の課題として「21世紀を拓く」においては、伝え合い、表現する学習活動を行うことで気づきの質を高めていく指導の工夫が必要だというふうにあるのですけれども、伝え合い、表現する学習活動を行うという点でよく配慮されている者があれば、教えていただけますでしょうか。

吉野教育センター指導主事 どの教科書にも、そのような特徴はありました。

教育出版は、単元の導入時の「わくわくすいっち」により、生活科では難しいと言われている学習の動機づけが可能となっております。そして、小単元の「サイコロ」によって活動のポイントが明確化され、児童たちが目当てに沿って学習に取り組むことができるため、本来持っている力を発揮する活動ができます。その中で今おっしゃったように、「サイコロ」の伝える、自信を持つというようなページでは、振り返り方や表現の仕方などが豊富に例示してあり、自信を持って振り返りができます。そして、表現力を育むという面では優れているところになります。人気キャ

ラクターの「いぐら」による「ぐんぐんはしご」も同じような表現力、評価という点では優れております。

また、大日本図書につきましては、先ほどもお話をさせていただきましたが、毎時間、单元ごとというところに自分の振り返りがあります。その中で表現力が育まれるようなヒントがあります。例えば教科書の上30、31ページで、まだ小学校入学時、間もない児童たちでも「学校と仲よくなれたよ」というところで、話し方例示、そして聞き方例示というような形で例示をしております。ですので、小学校入学してすぐの児童たちも、表現力という面と聞くという形では、相手を見て一生懸命ずっと口を開けて笑顔で終わりまで話すといったような具体的な例があります。そして、児童たちの吹き出しからは、もう一度会いに行きたいね、おもしろい場所がいっぱいだなど、次の活動へ促すような言葉が表示されております。以上となります。

高津委員 生活科、小学校1年生、2年生は本当に楽しい写真がいっぱい、楽しい教科であるなど想像されます。どの教科、どの写真を見ても表情豊かで楽しそうにしておりました。幾つかの者、7者ですか、私は、大日本図書か東京書籍かなと思っております。

その中の大日本図書ですけれども、ほかの教科書と入り方が違うような気がします。表紙を開けますと、みんなのこと教えて、そして、好きなこと、好きなものを書いてみようで始まっています。ほかの教科書は、まず学校の小学校1年生ということから入るのですけれども、専門ではないのでよく分からないのですが、まず自分自身をしっかり見つめて、そして学校生活でのいろいろな学習とか、自然や身近な人との触れ合いとか、社会体験活動を通して成長する自分にまたつなげて、下巻の最後のほうに自分に返しています。一番最初は好きなことを教えてとあって、最後は見つけよう、自分のすてき、みんなのすてき、そして最後に、未来に向けて出発と、将来に夢をつなげていっている教科書だと思っています。ある意味では、きっと成長した2年間でよかったと思って終わっているのではないかと思ひまして、これは流れとしていいなと思ひました。

東京書籍は、単元の初めにイラストを上手に入れて、それに吹き出しをつけてあります。1・2年生には分かりやすくなっていました。「かつどうべんりてちょう」にもイラストがあつて、楽しく見やすくなつておりました。その2つがまずいいなと思ひま

した。以上です。

大山委員 私も同じく、大日本図書と教育出版で迷っているところです。

教育出版は、スタートカリキュラムに学校生活の様子を音声つきで写真で示していきまして、安全・安心な学校生活を送るツールになっていると思いました。最初ですので、ご家庭でも保護者の方と一緒に勉強もできるし、とてもすばらしいなと思いました。「わくわくすいっち」も大変工夫されていると思います。

大日本図書のほうは、やはり写真の使い方がとても上手で効果的だなと思いました。82、83ページにあるのですが、わざと白黒の写真を使いきまして、子どもたちに考えさせるというページがありました。その辺りはほかの教科書ではないところでしたので、逆にこれは効果的なのかなと思って、両方で比べているところです。

鶴岡教育長 では、私のほうから、まずは各者とも登場人物であったりキャラクターをうまく使って、共生社会というのをすごく意識しているなというふうなつくりと捉えました。まさに現代社会に合っているつくりかなと思いました。あと、興味関心が高まるつくりでありました。

特にといえば先ほどから出ていますように、東京書籍は、単元の初めの見開きの写真、これは教育指導課長からの報告にもあったように、躍動的であって他者、大日本図書であったり、学校図書であったり、啓林館も見開きなのですが、やはり東京書籍のこの写真は圧倒的な躍動的があるなという見方をさせていただきました。また、虫の観察については、ダイナミックなリアル感を持つのがやはり大日本図書と学校図書、キャラクターをうまく使って子どもたちの興味関心をうまく良い意味で活用しているなと思うのが、教育出版と大日本図書、1年生のスタートを安心して切れるような優しいスタートの仕方をしているなというふうに思ったのは、東京書籍、啓林館、教育出版というふうに捉えております。

私としては、今、東京書籍、大日本、そして教育出版の3つでどうしようかと考えております。以上です。

小西委員 私も生活科について非常に悩んでおきまして、教育長と一緒に、東京書籍、大日本図書と教育出版で今も悩んでおります。スタートカリキュラムのところは、やはり東京書籍と教育出版が非常に上手で文字も写真も大きくて、あと東京書籍の植物を育てる

単元も、種から徐々に成長していく写真の見せ方も非常におもしろいなというふうに思いました。

本市の課題との関係で、伝え合う、表現する学習活動を行うという点なのですけれども、先ほどご説明のあった部分だと、教育出版、大日本図書が話し合いの前提となる技術を学ばせているところが多いのかなというふうに感じたのですが、東京書籍のほうは話し合いの活動自体が多いのかなというふうに考えていて、どちらのほうがいいのかというところが非常に悩ましいところです。このあたり何かご意見あれば、教えていただければと思うのですが。

吉野教育センター指導主事 3者とも大変優れていると思います。申し上げたように、東京書籍は5つの構成となっていてというお話をさせていただきました。ただこの繰り返しを行うことによって育まれる力というのは大きいと感じております。ですので、大日本図書、東京書籍、それから教育出版ともにすばらしいものだと思っております。

竹田委員 どの教科書もよくできているので、非常に私も悩んで、大日本図書か東京書籍か教育出版の3つで悩んでいます。今まで2つで悩んだことが、3つで悩んでいるのは今回が初めてで、その中で強いて言えば、「いぐら」がついている教育出版かなと思います。

鶴岡教育長 他に、ご意見等ありませんようですので、これより、令和6年度に本市立小学校において使用する「生活」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「生活」の発行者は7者、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「信州教育出版社」「光村図書出版」及び「新興出版社啓林館」です。この7者から投票により決定します。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告をします。

「東京書籍」 1票

「大日本図書」 1票

「教育出版」 3票

「教育出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「生活」の教科用図書は、「教育出版」と決定しました。

《音楽》

鶴岡教育長 次に、小学校用教科用図書「音楽」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 小学校「音楽」について報告します。

33ページをご覧ください。

まず、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」についてですが、学習指導要領の音楽科の目標、本市の教育施策に照らして、内容が適切に取り上げられているもの、児童の発達段階や興味・関心・能力、さらには地域や学校の実態に対応したもの、我が国の伝統文化に関連した音楽についての理解を深め、そのよさを味わえるもの、音楽表現をするために必要な技能が身につけられるもの、感性を高め、思考・判断し表現する力の育成を図れるように配慮したもの、表現及び鑑賞領域を関連づけ、柱として構成が工夫されているもの、学習の見通しと振り返りが分かりやすいもの、系統的に学習内容が配列されているもの、道徳教育との関連が図られているものといった特色を有する教科用図書を選定する必要があると考えております。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご覧ください、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、教育出版ですが、「学習指導要領への対応」の(2)については、例えば国語との関連で、5年、48、49ページに「ゆき」が掲載されているなど、国語や算数、理科などに関連する教材や、歌を通して外国語に親しむ活動が設けられ、教科横断的な学習となるようよく工夫されています。「内容」の(4)については、二次元コードを利用して学習をサポートするコンテンツ「まなびリンク」により、個別最適な学びや協働的な学びを深めることができます。1人1台端末などでコードを読み取ることで、3年、20、21ページのように、楽器の奏法や解説動画、音源などの資料が活用できるようよく工夫されています。サイズはA B判で1冊です。

次に、教育芸術社ですが、「学習指導要領への対応」の(1)については、全学年の巻頭には「学習マップ」、巻末には「ふり

返りのページ」が掲載されるとともに、例えば1年、32、33ページのように、各教材ページには、「見つける」「考える」「歌う・演奏する・つくる」のマークが示され、児童が主体的に学習を進められるようよく配慮されています。「内容」の(1)については、例えば5年、34ページからの「和音のひびきの移り変わりを感じ取ろう」では、34ページに題材の学習の見通し、37ページには学び合いのヒント、39ページで題材を通しての学習の振り返りが示され、題材名の下で「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」が確認でき、最終ページで学んだことを振り返り、これからの学習につなげるという点が特に優れた構成となっています。また、(4)については、二次元コードを利用した曲の音源や楽器を紹介する動画や、特に2年、41ページのように「音楽づくり」に関する支援のコンテンツが豊富に用意され、児童の興味関心や発達の段階に応じて無理なくステップアップできるようよく配慮されています。サイズはA B判で1冊です。

以上で小学校音楽の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

大山委員 ご説明ありがとうございました。

音楽ですと初めて習う楽器が大変多くなると思います。運指について指導する側と習う側として2者を比べたとき、その違いという特徴があれば、教えていただければと思います。

神馬教育指導課指導主事 器楽の指導における運指の指導、特に運指の違いということがありましたので、その点につきまして、専門調査員からの報告をご説明します。

例えば、2年生で鍵盤ハーモニカの合奏をしますが、教育芸術社の2年生の24ページを例にしますと、そこでは親指の位置が変わるごとに対応して、手のイラストが示されているというふうな特徴があるということを知っています。

もう一方の教育出版につきましても、同様の教材があります。そちらにつきましては、写真で親指の位置を示してございまして、そういったところがそれぞれ特徴となっているというふうに報告を受けております。

小西委員 2点教えていただきたいことがあります。まず1点目ですけれども、鍵盤ハーモニカとリコーダーをよく児童たち使うかと思うのですが、鍵盤ハーモニカのほうで、1年生で初めて鍵盤ハーモニカを学ぶものなのですが、教育出版は、教育芸術社よりも早

い段階で1年生から出てきていたり、あとリコーダーについては、もう両者の記載が少し違うかなと思うのですが、音楽を苦手とする子どもたちにとって、導入のしやすさ、学びやすさという点で、2者に何か特徴があれば教えていただければと思います。

神馬教育指導課指導主事 その点につきまして、専門調査員の報告によりますと、教育出版は、二次元コードを活用することで、例えば鍵盤ハーモニカでは息の長さによる音の違いを示したりですとか、それからリコーダーでは先ほども説明があったように、楽器の奏法を動画で見ることができたりするなど、児童たちの学びやすさといった点でやはり優れているというふうに聞いております。

教育芸術社につきましては、楽器との出会いが大切なものとなるように導入ページを設置しておりまして、楽器の写真を大きく掲載したり、楽器の一部を使って遊ぶ活動を取り入れたりして、楽器への関心が高まるように工夫されており、こちらにつきましては、導入時の親しみやすさといったところでの点で配慮されているというふうに聞いております。

小西委員 ありがとうございます。

もう1点、質問というよりは確認なのですが、歌のところについてです。両者を比べて見たときに、例えば共通教材で「さくらさくら」があると思うのですが、教育出版のほうは、最初のページに風景と歌詞のみが書かれていて、ところが教育芸術社のほうは、歌詞とか風景とともに、どのように歌ったらよいかというのが最初の段階で示されているという違いがあると思います。ほかにも「もみじ」であるとか「とんび」やほかの曲も同じような傾向が見られたのですが、全体的に教育出版のほうが一人一人の児童たちに課題を見つけさせていくという特徴があり、教育芸術社のほうは、ある程度最初に手がかりを示して、そこから少しずつ発展させ高めようという、そういう特徴があると捉えて、それでよろしいでしょうか。

神馬教育指導課指導主事 今回の点につきまして、歌唱のみならず、そういう題材を通してそれぞれの特徴があります。教育出版につきましては、見開きごとに学習の狙いと、それから学び方を指すような「学びナビ」というコンパスになったものが示されておりまして、児童がこういう見通しを持って主体的に学ぶことができるように配慮されているというふうに聞いております。

教育芸術社につきましては、学習の目標や具体的な活動例、それからヒントなどが先ほどの話のように豊富に用意されており、音楽的な見方、考え方を働かせながら学習を進められるようなつくりになっているということを聞いております。また、先ほどの説明にもあったように、児童自らが学習の目当てをつかんでいけるように「見つける」ですとか、「考える」、「歌う・演奏する・つくる」のマークを示して、こちらも主体的な活動を引き出すような工夫をされているといった紙面構成になっているというように報告を受けております。

高津委員 教育芸術社について、全学年を通して、学習マップ、歌う、演奏する、聞く、つくる、この中に一つずつ目標があったり、あるいは児童目線の吹き出しが出ているという楽しいマップになっております。そして、下段部分というか一番下に3つの観点が示されて説明されております。その3つの観点の各題材、歌のほう、全てにこの3つ、「見つける」「考える」「歌う」とか、あとは歌のところが時々、ほかにも「つくる」とか「演奏する」とかあるのですが、これがあることによって、先生方とか児童たちがこの観点をよく一つ一つ狙えるということで、とてもいいなと思えました。以上です。

竹田委員 大山委員がおっしゃったことと少し関連するのですが、鍵盤ハーモニカの運指について、教育芸術社のほうは、例えば1年生の38ページ、まず、ドレミじゃなくてドとソの音と友達になりましょうと出てくるのですけれども、実際に指導の場合、ドレミから教育出版は入るのですけれども、ドとソをまず覚えさせることのほうが普通なのでしょうか。

神馬教育指導課指導主事 どちらも鍵盤ハーモニカにつきましては、題材を最後まで通して学習しますと、ドからソまで学習できるような構成になっておりまして、確かに教育出版は、まずドからミまで、それから最後はドからソという流れです。その一方で教育芸術社のほうは、ドとソというふうに取り上げているということですね。

こちらにつきましては、どちらも、もちろんそのステップで無理なく学習できるようにというふうな構成になっているというふうな報告を受けておりますけれども、どちらにも良さがあり、音の指の順番に学習をしていくというふうになっている教育出版に対して、教育芸術社のほうは指の一番端と端といったところで、「どんぐりさんのおうち」が今出ておりますけれども、2つ

のお山の左側ということで親指を示し、その歌のとおりにいきま
すと、3つのお山に聞きましょうということで、ソラマメさんのお
うちはどこでしょうということで、ソの音をソラマメに擬人
化といいますか、擬態化して示しているということで、まずドと
ソを学習してから、ドレミファソの間の学習というふうにそれぞ
れ工夫をして書いていると、こちらの鍵盤ハーモニカの弾き方の
指導を取り上げているというふうに報告を受けております。

竹田委員 特にどちらのほうが、児童たちが覚えやすいということはない
わけですね。

神馬教育指導課指導主事 そうですね。専門調査員からは、その細かいところまで報告
は受けていないのですけれども、やはり児童一人一人の実態に合
わせてということが大事になるかと思っておりますので、もちろん教
科書ではこういうふうに取り上げている面で、よく歌に合わせな
がら学習するというところで、どちらも学習しやすいかというふ
うに思っております。

竹田委員 2択なのですけど、私は、教育芸術社のほうが良いと思います。

1つは、今、指導法のところでちょっとユニークなところがあ
るということと、あと共通の曲ということで、2年生の「こぎつ
ね」という曲が出てくるのですけれども、その鍵盤ハーモニカ
の指の使い方を見ていると、教育芸術社が2年生の56ページな
のですけれども、運指のところが楽譜のところで、あそこだけ色
が変わっているのですね。それだけ指を変えていけばいいよとい
うふうに見てすぐ分かるのですね。教育出版のほうは42ページ
に「こぎつね」が出てきますが、これは下のほうに今度は指の動
きが出てくるのですけれども、カラーで音符のところを示したほ
うが、私は分かりやすいなと思いました。

それと、リコーダーについて、3年からリコーダーが始まるの
ですけれども、教育出版のほうは、写真がメインですね。写真だ
と穴の位置がよく分からないことが多いので、イラストも出てい
るのですけれども、教育芸術社のほうは、ほとんどイラストで説
明しているので、穴の位置が非常に分かりやすいということがあ
ると思います。あと、サミングとか、教育出版にはないような高
音のファやソもきちんと説明しているので、その辺りは教育芸術
社のほうが少し丁寧かと思えます。

あと、もう1点、高学年5年、6年になると、いろいろ発展し
てきて、へ音記号とかシャープとかフラットとか、非常に音符や

記号が出てくるのですけれども、両者とも巻末に索引というか一覧表が載せてあるのですけれども、見ているとやっぱり教育芸術社のほうは、何拍子とかそういうものをかなりきちんと説明してありますし、そういうものがどのページに出ているかということもきちんと書いてありますし、非常に繰り返しの部分とか読んでいて分かりやすいという工夫がありました。以上です。

高津委員 私は、先ほども教育芸術社のことを言いましたので、教育芸術社がいいなと思います。

小西委員 私も意見ですけれども、本市の児童の課題や目標の見通しを明確にして学ぶというところにある点を考えると、私もヒントなどが豊富に掲載されている教育芸術社のほうがよろしいかなというふうに思っております。あと、裏表紙の写真などにもあるように、教育芸術社のほうが日本の伝統文化や郷土音楽に重きを置いているかなと感じましたので、その点も好印象でした。

鶴岡教育長 私のほうも、両者とも特色はあるのかなと思うのですが、段階的に学びを児童たちへという部分では同じかなと思います。特徴としては、やはり教育出版のほうは、学びナビ、学び合う音楽というところに着目しているところかなと思いますので、そういった学び方の良さがあるのかなと。教育芸術社のほうは、題材名があって、その下に何を学ぶのかということがしっかり書いてあるので、教職員も児童たちも、何をそこで学ぶのかということがまず明確化して授業に入れるのかなと思いました。そこが特徴かなと思いました。

鶴岡教育長 他に、ご意見等ありませんようですので、これより、令和6年度に本市立小学校において使用する「音楽」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「音楽」の発行者は2者、「教育出版」及び「教育芸術社」であります。この2者から投票により決定をします。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について報告をします。

「教育芸術社」5票

「教育芸術社」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「音楽」の教科用図書は、「教育芸術社」と決定しました。

《図画工作》

鶴岡教育長 次に、小学校用教科用図書「図画工作」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 小学校「図画工作」について報告します。

35ページをご覧ください。

まず、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」についてですが、本市の児童の学力については、作品に対して技術的に完成度の高いものをよしとする傾向があり、自分の考えや思いを主体的に表現する活動が十分でないことが課題となっております。したがって、対象や事象を捉える造形的な視点について、材料・用具、表し方、感じ方などから分かりやすく提示してある教科用図書を選定する必要があるものと考えます。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご覧ください、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、開隆堂出版です。「学習指導要領への対応」の(2)については、教科横断的な視点がよく配慮されており、各題材に関連する他教科の学習活動を想起させる文章を示してあります。例えば3・4年、上46、47ページは、木切れを組み合わせて、どんな図形ができるかを考える算数科に関連する活動です。「内容」の(3)については、5・6年、上56、57ページのように、各地の伝統文化や材料などを生かした造形活動を取り上げ、児童や学校の実態に応じた活動ができるようよく配慮されています。サイズについてはA4判の1冊です。

次に、日本文教出版ですが、「学習指導要領への対応」の(1)については、5・6年、上58ページのように、作品や活動を互いに見合い、感じたことや考えたことを伝え合う活動や鑑賞の視点を掲載することで、主体的・対話的で深い学びにつながるようよく工夫されています。また、(3)については、1・2年、上30、31ページのように、身近な自然の形、色をいろいろな見方で捉えさせ、生活や社会の中の形や色などの美しさやおもしろさに気づき、豊かに関わる資質・能力を育成するようよく配慮されています。「内容」の(2)については、1・2年、上2から

9 ページのように、幼児期の学びを振り返り、その学びを生かし、安心して楽しくスムーズに図工の学習が始められるよう接続題材を設定しており、よく工夫されています。サイズはA4判の1冊です。

以上で小学校「図画工作」の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含めて何かございますか。

では、私から。

図画工作の教科書は、ほかの教科書と違って難しいなと思います。それはなぜかという、作品をあまり詳しく載せすぎると、その作品に似せるような作品、いわゆる画一的な作品ができやすくなってしまわないかと。逆に言うと、どうやって創造性を膨らませたり独創性を養ったり、そういったところが大事になってくるのかなと思うのですけれども、そういった意味で、各者の何か工夫されているところがあったら教えてもらいたいと思います。

平澤教育指導課主任指導主事 専門調査員の報告によりますと、2者とも多様な表現を認められるよう、参考作品においては、形、素材は様々なものが取り入れられています。

特徴としましては、開隆堂出版においては、各学年に掲載してありますが、一例としまして、3・4年の下64ページ、「ひらめきショートチャレンジ」としまして、発想の方法を知り、気軽に実験的に楽しみながら描くことで発想を学ぶことができるようになっております。また、二次元コードにも発想を広げる手だてとしまして、アイデアシートを掲載しております。

次に、日本文教出版としましては、「図工の見方」として、こちらも各学年に掲載してあります。一例としまして3・4年、下16ページ、17ページにありますように、児童たちの発想や構想、表現のヒントになる投げかけを写真やイラストと共に掲載し、発想・構想の手だてとしております。また、二次元コードにもシンキングツール、さらには心と体をほぐして授業に向かう気持ちをつくる「ずこうたいそう」というのを掲載しております。以上です。

大山委員 両者とも大変芸術に優れているところがあると思いました。日本文教出版のほうは、今どきだなとすごく思いましたのは、明かりを取り入れている教材が大変多くありました。昨年、授業参観に行きましたときにも、光のアートというのを行っていま

して、今はタブレットを児童たちが持っているので、それを使ってデジタルアートを行っていて、大変今の児童には興味があるのかなと思いました。ただ大変残念なのですけれども、日本文教出版はマスクの写真がとて多くて、おそらくコロナ禍で撮られたので、そういう写真になってしまったと思うのですが、4年間使うことを考えると、とてもそこは残念だなと思いました。

あと、開隆堂出版のほうは、左上に使用する教材が全部出ております。そこら辺はとても分かりやすく親切だなと思って見せていただきました。

小西委員 両者とも、非常に学びの目当てが分かりやすく記載されていて、また、おもしろい作品がたくさん載っていて、選ぶのが非常に難しいと感じております。

お聞きしたいところが、総合展を見にいったりすると、やはり専科の先生がいるかいないかで、児童たちの作品に差が出てくるなというところを感じるところなのですけれども、本市において、図工の専科の先生がどの程度配置をされているのかという点と、専科ではない先生でも教えやすい教科書という点で、何か両者特徴があれば教えていただければと思います。

平澤教育指導課主任指導主事 現在、本市におきまして、図工の専科として配置されている職員数は30人となります。兼務はないので30校、30人となります。また、先ほどご質問ありました専科以外、また、経験の浅い先生方にとって教えやすい教科書ということですが、2者とも、2ページ見開きで学習の流れが分かりやすく見えるようなつくりになっております。学習の目当て、活動の様子、作品、また準備するもの、安全面、片づけについて記されております。また、それらをサポートするものとして二次元コードがあり、経験が浅い先生、専門外の先生でも使いやすくなっております。

両者の特徴としましては、開隆堂出版におかれましては、学習の目当ての中で、特に大切な目当てには、下線が引かれて赤字になっております。また、日本文教出版におかれましては、目当てに沿って表現のヒント、また、鑑賞のヒントを記しまして、児童が発想や構想の手助けとなるように工夫されております。以上です。

竹田委員 2者とも、最初に学習の目当てが3つ出てくるのは同じで、大体内容は同じようなのですけれども、今おっしゃったとおり、開

隆堂出版のほうは、特に重点的に学習したいところに赤の文字でアンダーラインが入って、非常にメリハリがついて良いと思います。

あと、先ほどマスクの件が出ましたけれども、確かに少し異様な感じがして、先ほども生活のところで児童たちの顔がたくさん出てきたのですけれども、あれを見ていると、マスクをしているのは給食当番の児童しかいないので、図画工作を楽しんでいるのかなという、その辺りで疑問に思いました。以上です。

小西委員 私も、ほかの委員の先生方と同じ理由で、開隆堂のほうがいいかなというふうに考えております。あと、付け加えるとすると、家庭科に対して、やはり私は技術ができるようになること以上に、子ども達が自分も家族や地域の一員として協力するのだという意識を持てるよう学校でも指導をしてほしいと思っているところなのですが、その点、開隆堂のほうが、家族と一緒に考える、家族と一緒に実践するという視点がより多く盛り込まれているというふうに思いました。

開隆堂さんの二次元コードをいろいろ見ていたのですけれども、50ページのご飯を炊いてみようというところの動画を見ていたら、AIが読み上げたような機械的な音声のイントロネーションになっていて少し違和感を感じた部分があったので、そこは訂正可能であれば訂正いただきたいと思ったところです。以上です。

高津委員 日本文教出版、3年生の3ページ、4ページあたりは、教科書の使い方ということで、下には学習の進め方で吹き出しが出ていて、これは分かりやすいなと思いました。あと、理科でも出てきたかもしれないのですが、表紙を開けて1ページ目、2ページ目はやや大きな写真で訴える写真のほうが、開隆堂出版は1・2年生のチョウが、ぱっと見て先生とお話をしていたり、にこやかに笑っていたりということで、こういう印象があるものをぱっと出していくと、いいのではないかと思いました。

あと、日本文教出版では、6年生の最後、やはり「つながる図工」ということでつくる人、私もインタビューを聞きましたけれども、やっぱり今の小学生に投げかけをしていますし、これもなかなかいいかなと思いました。どちらかというのはなかなか難しい、どちらが良いかというのは、悩んでいます。

鶴岡教育長 では、私のほうから。図工に限らないのですが、専科教員が本市は今どんどん増えている状況です。専科教員が増えているのは

大変喜ばしいことではあるのですが、その裏腹、全校に配置されていない分、専科教員でない部分は非常に不安を感じている教職員が若干いるというのが本音であります。これは図工に限らないのですけれども。

となると、やはり子どもたちにとっての教科書ではあるのですが、教職員にとっての教科書でもなければいけないかなど。いわゆる発問例が多かったり、イメージしやすい写真やイラストが多かったりというところが少しポイントとなってくるのかなどと思うと、私は、日本文教出版のほうがより扱いやすいのだろうなと思いました。ただマスクについては、少し残念だなと思いました。デザインまでは、気づきませんでした。以上です。

鶴岡教育長 他に、ご意見等ありませんようですので、これより、令和6年度に本市立小学校において使用する「図画工作」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「図画工作」の発行者は2者、「開隆堂出版」及び「日本文教出版」であります。この2者から投票により決定をいたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果についてご報告します。

「開隆堂出版」2票

「日本文教出版」3票

「日本文教出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「図画工作」の教科用図書は、「日本文教出版」と決定しました。

《家庭》

鶴岡教育長 次に、小学校用教科用図書「家庭」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 それでは、小学校「家庭」について報告します。

39ページをご覧ください。

まず、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」についてですが、本市の家庭科の課題としましては、習得した知識及び技能

などを実生活で活用できるように、日常生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れることや、中学校との連携を意識した指導内容の工夫改善に当たることが上げられます。また、主体的・対話的で深い学びの実現のために、1人1台端末など、ICTを効果的に活用する必要もあります。

したがって、児童が生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決を図る問題解決的な学習活動や、内容を生活の営みに係る見方・考え方の4つの視点で捉え、実践的・体験的な学習活動を通して資質・能力を身につけられるといった特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えております。また、主体的・対話的で深い学びの実現のために、資料やデジタルコンテンツが充実していることも必要です。

次に、教科用図書を選定するための観点については、紙面をご覧いただき、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、「内容」の(2)については、22、23ページでゆでる調理の基本を学び、その後に野菜を使ったサラダを例示するなど、基礎・基本から応用へと系統的に配列されています。衣食住における衣生活においても、まず、手縫いの基礎を学び、次に手縫いの良さを生かした制作例を示し、着実に知識・技能を身につけられるようよく工夫されています。また、(4)については、資料や解説が多く盛り込まれています。例えば29ページの裁縫用具の説明など、基本的事項がしっかり押さえてあり、特に優れています。サイズはA4判の1冊です。

次に、開隆堂ですが、「学習指導要領への対応」の(3)については、58、59ページなど、写真やイラストには様々な年代や国籍など多様な人々が常に登場し、共生の視点に気づくことができるよう配慮されています。「内容」の(2)については、14、15ページのように、実習や製作は見開きで左から右に工程が進むよう見やすいレイアウトに工夫されていることや、どのページも単語が行をまたがらないように調整されているところが特に優れています。また、(4)については、一人一人に応じた学習内容の設定ができるように、44ページのように製作の学習内容に関して難易度が示されています。サイズはA4判の1冊です。

以上で小学校「家庭」の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

竹田委員 印象だけで申し訳ないのですが、単元に調理とか裁縫が出てくるのですけれども、私は調理も裁縫もやらないのですが、開隆堂のほうは、調理のことをクッキングというタイトルで呼ぶのですね。裁縫のほうはソーイング、非常にモダンな感じのするタイトルがついているので、その辺りが感心しました。

大山委員 両者とも同じように丁寧にできている教科書だと思ったのですが、実は同じ調理実習で、おみそ汁を作るというところがあったのですが、東京書籍のほうは、だしは煮干しだけでした。開隆堂のほうは、煮干しで作るのですが、それ以外も教材でだしの種類を出していきまして、そこを説明しています。大根も煮るだけではなく、煮たらどうなるか、ほかの材料はということ、かなり踏み込んだところまで出ておりました。ほかのことにしても、ソーイングのほうも同じように丁寧にやっているなという印象を受けております。

鳥羽教育改革推進課主任指導主事 東京書籍のほうなのですけれども、53ページで、かつおぶしや昆布、干しシイタケ、アゴ、トビウオのだしについても触れられております。

高津委員 2者のうち、開隆堂のほうがよりいいのかなと思っています。1つ目は、表紙を開けますと、誕生から中学生まで、これもイラストや吹き出しを使って、これからの将来に向かって中学生がずっと上にある図です。他教科とか学校生活の関係はこの図で何でも分かります。そして、一番最後のほうなのですけれども、2年間の学習を中学校生活につなげよう、また、キャリア教育につなげようというところが、家庭科を使って今後につなげていると。これがよく分かっていいなと思いました。

それから、2つの教科書を同じ内容で比べてみますと、開隆堂の14ページから15ページ、ここでは、ゆでて食べようというところ。青菜のお浸しとゆで芋で、東京書籍は22ページから23ページ、これが全く同じ部分です。これを比べさせてもらうと、開隆堂は横一線にずっと調理過程がよく分かって、最後が一番右です。そして、その下に、これが意外と大事ではないかなと思うところなのですけれども、東京書籍もここまでは出ているのですが、写真が載っている。

それから、被服のところは全く同じなのが開隆堂の44ページから45ページ、私は裁縫は一切やっていないのでよく分からないのですが、ランチョンマットの製作です。東京書籍は74

ページから75ページです。開隆堂は、左からいって最終は一番右です。製作工程がよく分かります。74ページからの75ページのところで、申し訳ないのですけれども、スタートがどこでゴールがどこかと、裁縫をしていけばきっと分かるのだと思いますが、よりこういう面で開隆堂のほうがよく分かるなというところで、全体的には両方の教科書がそれぞれの考え方でよくできていますが、考えさせてもらいました。以上です。

小西委員 私も、ほかの委員の先生方と同じ理由で、開隆堂のほうがいいかなと考えております。あと、付け加えるとすると、家庭科に対して、やはり私は技術ができるようになること以上に、子ども達が自分も家族や地域の一員として協力するのだという意識を持てるよう学校でも指導をしてほしいと思っているところなのですが、その点、開隆堂のほうが、家族と一緒に考える、家族と一緒に実践するという視点がより多く盛り込まれていると思いました。

開隆堂さんの二次元コードをいろいろ見ていたのですが、50ページのご飯を炊いてみようというところの動画を見ていたら、AIが読み上げたような機械的な音声のイントネーションになっていて少し違和感を感じた部分があったので、そこは訂正可能であれば訂正いただきたいと思ったところです。以上です。

鶴岡教育長 私も、どちらかというところ、開隆堂のほうが資料の提示が的確であって、学習するに当たって丁寧につくられているなと思いました。実はよく見ると、東京書籍のほう詳しく書いてあります。逆に詳しく書き過ぎて、字が小さくなったりして見にくくなっているなど、そこが残念だなとは思いました。

鶴岡教育長 他に、ご意見、等ありませんようですので、これより、令和6年度に本市立小学校において使用する「家庭」の教科用図書を決めます。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「家庭」の発行者は2者、「東京書籍」及び「開隆堂出版」であります。この2者から投票により決定します。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果についてご報告します。

「開隆堂出版」5票

「開隆堂出版」が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「家庭」の教科用図書は、「開隆堂出版」と決定します。

鶴岡教育長 ただいまの時刻は、16時27分です。議事の途中でありますが、ここで休憩を挟むことといたします。おおむね10分後、16時40分を再開としたいと思います。

<休憩>

《保健》

鶴岡教育長 会議を再開します。

小学校用教科用図書「保健」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 小学校「保健」について、報告します。

41ページをご覧ください。

まず、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」についてですが、本市の児童の体力や運動習慣、朝食喫食率等の値は、全国平均や県平均と比較して総じて良好です。今後も児童が意欲的に体力づくりに取り組み、健康で安全な規則正しい生活習慣の意識化を図っていくことが必要と考えております。したがって、学習の狙いが明確に示され、児童の主体的な学びや日常生活への実践を促すように編集、構成されているかといった特色を有する教科用図書を選定する必要があると考えております。

次に、教科用図書を選定するための観点については紙面をご覧ください、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、「学習指導要領への対応」の(1)については、3・4年18ページにあるように、実習動画や思考ツールを二次元コードで提示するなど、発展的な活動や技能習得につながる内容を紹介しており、また、全編にわたり他者と意見を伝え合う活動を取り入れるよう、よく工夫されています。

「内容」の(2)については、課題解決のための思考の流れを意識した4ステップ構造で掲載されております。特に課題設定の場面では、5・6年5ページにあるように、課題解決の資料が目に入らぬよう工夫されています。サイズはA4判の1冊です。

次に、大日本図書ですが、「学習指導要領への対応」の(1)

については、3・4年11ページのように、全編にわたり言語活動が活発に行えるよう、話し合う活動が設定され、よく工夫された構成になっています。

「内容」の(4)については、5・6年16ページのように、各章の終末に「もっと知りたい」や「学年のまとめ」を設け、個の関心や理解に応じて学びを広げることができるよう、よく工夫されています。サイズはA4判の1冊です。

次に、大修館書店ですが、「学習指導要領への対応」の(2)について、3・4年39ページのように、運動領域との関連を図った指導がなされるように配慮されています。サイズはA4判の1冊です。

次に、文教社ですが、「内容」の(1)について、5・6年27ページにあるように、登場人物同士の会話が実際の話合いや体験活動へと導くヒントになっており、見通しを持って主体的に学習を進めるためによく工夫されています。サイズはA4判の1冊です。

次に、光文書院ですが、「学習指導要領への対応」の(2)については、3・4年34ページに見られるように、教科横断的で系統性のある学びを通して知識を整理できるよう、よく工夫されています。サイズはA4判の1冊です。

最後に、学研ですが、「学習指導要領への対応」の(1)について、3・4年10ページほかのように、全編にわたり友達と話し合う活動を取り入れるよう、よく工夫されています。

「内容」の(4)については、5・6年44ページほかのように「ほけんのはこ」や「もっと知りたい・調べたい」を設け、個の関心や理解に応じて学びを広げることができるよう、よく工夫されています。サイズはA4判の1冊です。

以上で小学校「保健」の報告を終わりにします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

高津委員 ご説明ありがとうございました。

それでは、3年生から6年生まで、各学年1年間で何時間の授業があるのか教えてください。

池田保健体育課指導主事 小学校の学習指導要領の体育編には、3・4年生の2学年で8単位時間、5・6年生の2学年で16時間程度となっております。そのため、3、4年生は年間4単位時間程度、5・6年生は年間8単位時間程度が目安となります。

高津委員 ありがとうございます。

続けてですけれども、3・4年生の内容なのですけれども、東京書籍は育ちゆく私たちの体、これ、思春期で3単元で、ほかの教科書は全部4単元です。4単元というと4時間だと、その1時間はどういうものなのか、3単元のものど、やる内容は同じなのですよね。やる内容というか、指導要領の中身も。

池田保健体育課指導主事 学習指導要領に示されている内容については、各者とも入っております。時間数として、3時間のところと4時間のところとこのがあります。

高津委員 分かりました。ありがとうございます。

大山委員 今どきですので、感染症予防について詳しく載っている教科書、あともう一つ、薬物、喫煙、飲酒等について注意書きがここは優れているというところがありましたら、教えてください。

池田保健体育課指導主事 感染症に関する内容は、各者とも6学年の病気の予防の中で扱われております。病気の起こり方、予防の仕方について、絵や写真などを使って分かりやすく記述されております。新型コロナウイルス感染症についても、各者とも発展資料として詳しく掲載をしております。関連動画の二次元コードなどで、東京書籍、大日本図書、学研、大修館図書、光文書院、文教社などが資料として見られるようになっております。

続いて、薬物の学習についてですが、薬物乱用に関する内容については各者とも指導要領の中に示されている内容を掲載してあります。薬物乱用で、薬物の別名を挙げているのが東京書籍の70ページ、大日本図書59ページ。その中でも東京書籍や学研、光文書院は医薬品の正しい使い方にも触れながら、今日的な課題にも対応できるような内容となっております。

竹田委員 学習の上で、資料の正確さというのは非常に大事だと思います。3・4年で初経とか精通という項目がありますが、この辺りは児童たちが非常に不安になる部分もあり、しっかりと学習すべきだと思うのですけれども、教科書によっていろいろ差があるのが気になります。

3・4年の東京書籍の36ページ、この上のほうに精通を経験した時期というのがあるのですけれども、ほかの教科書もこの資料を載せているのですけれども、ピークが14歳になっているのですね。ところが、ほかの教科書、例えば大日本図書、これも3・4年の33ページですけれども、ピークは12歳になっているの

ですね。だから、児童たちにとってみれば、ピークが14歳だと思っていたのに、自分が12歳で精通があると自分は異常なのではないかと。逆に14歳がピークだと、12歳であつたら自分がちょっと早熟なのではないかと、非常に悩むところだと思うのです。この辺りの統一というのは、何かできないのでしょうか。使っている資料はみんな同じなのですけれども、例えば東京書籍のほうは、これは数字が間違っていると思います。

東京書籍の36ページの部分、それぞれの年齢の数値を足していくと、2,000にはならない。1,700幾つですね。だから、これは計算間違いか何かである。使っている資料は3者同じなのですけれども、それぞれ数字が微妙に違っているので、この辺りは何か統一しないと、あと、ピークの年齢がちょっと違うので、その辺は使う教科書によって児童たちが、違うというふうになってしまっても困ると思うので、それは何かお考えがありますか。

池田保健体育課指導主事 こちらの資料について、精通のピークの時期が統計資料によって14歳で、大日本図書は12歳、文教社が13歳ということであります。ご指摘のとおり、1歳違うということで、児童たちにとっても、内容としては気になるころではあるのかなというところは思います。

竹田委員 その辺りは、教科書会社の方で統一的なものは出せないのですね。使う教科書によって内容が違ってくるとやはり問題はあると思うのですけれども。資料の新しさとか、そういうものもあるかもしれないけれども、そもそも数字が違っている部分が多いので、この3者は。その辺りは、検討していただくといいと思いますけれども。以上です。

鶴岡教育長 データのほうの確認をお願いします。

池田保健体育課指導主事 こちらの合計の数のところは、この※の高校生の回答の「分からない」や「無回答」が含まれないと記載している資料、していない資料があるので、その辺の違いもあるのではないかなということで、こちらでは把握をしております。

高津委員 先ほど3年生から6年生までの時間数を聞きましたので、時間数からいって、改めて保健のためのノートをつくるというのはちょっと不合理だと思って、この教科書がそのまま書き込んだノートになるというのがいいと思います。

それで、文章としてまとめるという箇所が多いのが、東京書籍、

そして、学研、これらはそのままノートづくりとしては適切な会社ではないかと思えます。

また、東京書籍については、保健学習をどのように進めるかと、最初のほうに出ています。どの教科書にも学習の進め方が書いてあるのですけれども、やはり東京書籍の保健の学習、この教科書の使い方というのが見開きで大変見やすく、分かりやすいと思えました。ですので、東京書籍か、あるいは学研かがいいのかなと私は思います。

学研の学年最後のほうのページで、知りたい、調べたい、振り返る、伝える、つなぐ、これは良いまとめになっていますので、この点からも学研、東京書籍がいいかなと思えます。以上です。

大山委員 私も学研がいいのかなと思ったのですが、実は5年生のところで不安や悩みへの対処というところがあります。そこが学研さんの教材といえますか、内容が大変充実しておりました。今の児童たち、中学生になる前に結構悩む時期でありますので、この早い時期にこういう不安や悩みについて対処していただければいいかなと思って、教材的にはよろしいかなと読んでいました。

小西委員 意見になりますけれども、実際の保健の授業時間数は少ないのに対して教科書の情報量が非常に多いということで、保健は核となる知識を押さえやすいことが大切だと思っておりまして、この点、大切な内容が大きく太字で書かれていて、インパクトのある写真が一目でぱっとつかみやすいというところと、あとは、先ほど高津委員がおっしゃったノートがあるというところで、東京書籍と学研が良いなと思っております。

学研が良いなと思ったのは、今、大山委員がおっしゃったところで、やはりいじめや不登校が全国的にも増えている中で、不安や悩みがあるときという部分を非常に丁寧に扱っている点が良いなと思えました。

東京書籍のほうは、性的マイノリティーの説明や、呼吸法の実習であったり、体の発育発達など、先生方によっては少し扱いが難しい、教えにくい、人によって教え方に個人差が出てしまうというような難しい部分について、二次元コードの動画が掲載されており、動画の中で非常に分かりやすく教えられていた点が良いと思えました。また、東京書籍は、ほかの者が心の悩み相談先について、電話番号だけを記載しているところ、メールやチャットでも相談可能ですよということも含めて、多数の相談先を丁寧に

載せている点が好印象でしたので、東京書籍か学研ということで、どちらかで決めたいと思います。

竹田委員 不安や悩みのことが出た、また、いじめのことも出たので、確認したいのですが、学研の5・6年生の17ページ、ここに、高学年の児童たちがどんなことで悩んでいるか書いてあるのですが、ここに出ている資料が、内閣府による2014年、およそ10年前の古い資料なのですね。資料が新しいというのも非常に大事だと思うのですが、たいていの教科書はこの資料を使っているのですが、東京書籍のすばらしいところは、5・6年生の13ページ、これは自社資料だと思うのですが、小学校5年生6万人以上の回答を基にして、左のほうですけれども、ほんのわずかですけれども、いじめというのが書いてありますね。いじめを、ほかの教科書では全くこの悩みの中に取り上げていないので、そういう意味では、非常に今日的な資料になっていると思います。

そういう意味でも、東京書籍が新しい資料を使っている点は非常に評価したほうが良いと思います。以上です。

鶴岡教育長 各者ともよくつくられていると思うのですが、この教科書を活用して、心と体が健康になるということがポイントなのかなというように思います。心の面も体の面も、そういった部分で学習をしてほしいなど。

先ほど学習ノートの扱いという話で高津委員からも出たのですが、私もその点から言えば、東京書籍と学研かなというふうに思います。具体的な部分ではあるのですが、学研と大日本図書は考えさせる項目が多いなという印象を持ちました。例えば、具体を申し上げると喫煙の部分です。教科書を開けてもらってもいいですか。

学研は66ページ、大日本図書は54ページ。2者、今出してもらったのですが、社会通念的に未成年者の喫煙は駄目なんだよというのは当たり前だと思います。なので、「喫煙は駄目なんだよ」、または、「喫煙するとこうなっちゃうんだよ」というところが非常にアピール、インパクトとしてはいいのですが、この2者以外の教科書は肺が黒くなっている写真からスタートしたり、歯の裏が黒くなっているところからスタートしたり、「喫煙をするとこうなっちゃうんだよ」からスタートするのですね。となると、学習、勉強とはそうではなくて、何でこんなポスターが貼っ

であるのだろうねという考えからスタートさせて、それが何でこういうものがある、それがこうやってつながっていくのだねというのが学習だと思っています。

そういうふうに考えると、この2者はそういったところから考えさせるところからの勉強になっていて、ほかの全者は全部、肺が黒くなったりとか、そういうところからのスタートになっているので、その学習という面では、私はこの2者が学習らしいなというような思いで見させていただきました。以上です。

竹田委員 これは感想というか、要望というか、5・6年生の生活習慣病の中で、たいていは死亡率を基にいろいろなことを論じているのですけれども、死んでしまう原因として一番問題になるのは、やっぱり国民病と言われている高血圧とか脂質異常症とか糖尿病とか、むしろそちらの基になる病気に軸足を置いたほうが、話としては非常に分かりやすくなってくると思います。

それともう一点、高齢化社会になって、自分のおじいちゃんやおばあちゃんが認知症になってくる子どももいると思います。だから、変だと思わずに、誤解とかそういうものがないように、認知症のこともこれからは取り上げていただければいいと思います。これは要望です。

鶴岡教育長 他に、ご意見等ありませんようですので、これより、令和6年度に本市立小学校において使用する「保健」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「保健」の発行者は6者、「東京書籍」「大日本図書」「大修館書店」「文教社」「光文書院」及び「G a k k e n」であります。この6者から投票により決定をします。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について、ご報告します。

東京書籍、3票、G a k k e n、2票。東京書籍が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「保健」の教科用図書は、「東京書籍」と決定しまし

た。

《英語》

鶴岡教育長 次に、小学校用教科用図書「英語」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 小学校「外国語」について、報告します。

47ページをご覧ください。

まず、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」についてですが、本市の児童の意識調査で、外国語に対する「外国語学習が好き」、「外国語の学習がわかる」という設問に対し肯定的な回答をした児童は8割を超えており、関心意欲を持っていることがよく分かります。学力については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点全てにおいて目標通過率を上回っている一方、5領域「聞く」、「話すこと（発表）」、「話すこと（やり取り）」、「読む」、「書く」に関しては、唯一「話すこと（やり取り）」において若干ではありますが目標通過率が下がっており、外国語を活用しやり取りをするコミュニケーション能力の育成に力を入れる必要があると考えております。

次に、教科用図書を選定するための観点については紙面をご覧ください、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、「学習指導要領への対応」の（1）については、6年の30ページStep2ではペア活動、31ページのYour Goalではグループ活動と、スモールステップで活動を積み重ね、「話すこと（やり取り）」の言語活動が豊富に用意されております。英語を話す目的や場面設定も適切で、よく工夫されています。

「内容」の（1）については、6年60ページの上には「Our Goal」という目標の明記、61ページの上には3観点に対応した目標があります。児童が目標を持ち、自らの学びを振り返りながら学習できる構成になっていることが特に優れた点です。サイズはA4判です。

次に、開隆堂出版ですが、「学習指導要領への対応」の（1）では、6年62ページからのようにLet's Try2でペアでのやり取りをしており、65ページActivity2ではグループ活動、67ページActivity3ではペア、グループ、最後のゴールを示しています。このように、英語を使いながら学

ぶことに視点を置き、段階的に互いの気持ちを伝え合う言語活動が充実するようよく工夫されています。

「内容」の（１）については、６年６１ページの上部にあるように、単元のゴールと毎時間の目標が明確に示され、児童が見通しを持って学習を進められるようになっています。サイズはＡ４判です。

次に、三省堂ですが、「学習指導要領への対応」（１）については、５年生２ページの目次では１年間の３つの大きな単元に分け、それぞれを「自分について」、「周囲にいる人々について」、「国や地域などの場所について」と分かりやすく活動内容を分類し、よく工夫された単元構成になっています。サイズは、本体はＡ４判、別冊はＡＢ判です。

次に、教育出版ですが、「内容」の（２）について、５年４６、４７ページのように、１ページの中に最大でも活動が２つ、または１つといった構成で、活動内容や掲載する内容を精選し、どのレベルの学習者でも負担なく学習できることが大きな特徴で、よく工夫されています。サイズはＡＢ判です。

次に、光村図書ですが、「学習指導要領への対応」の（１）では、５年４８ページのように「まとめYou can do it」が年間３回設定され、気持ちや考えを伝え合う言語活動の充実と学びを振り返るよう、構成がよく工夫されています。

「内容」の（４）については、巻末に学年ごとに取り外し可能なpicture dictionaryがあることや、二次元コードが教科書の各ページに必ずあり、アクセスしやすく、自律学習によく配慮されています。サイズはＡＢ判です。

最後に、啓林館ですが、「内容」の（２）について、５年１ページに、１つのプレユニットと８つのユニット、３つのレビューで全体が構成されており、スモールステップで学んだ後、復習に当たるレビューを取り入れスパイラルで学び、学習表現を再度使用できる構成がよく工夫されています。サイズはＡ４判です。

以上で小学校「外国語」の報告を終わりにします。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

竹田委員 ご説明ありがとうございます。２つ質問があります。

英語の４技能５領域の中で、小学校の高学年で一番重要視されているのは何かということ。もう一つは、短縮形のことです。

教科書によって、短縮形が非常に出ている教科書とあまり出していない教科書がある。短縮形というのは I a m を I ' m といたり、c a n n o t を c a n ' t といたり、d o n o t を d o n ' t といたり I w o u l d を I ' d といたり、こういうものをどの辺りで習うのか。あるいは、児童たちはこの短縮形の元の意味を知っているのかどうか、その辺りも含めて教えていただければと思います。

明石教育改革推進課指導主事 まず、ご質問の1点目、4技能5領域にわたり、高学年においてどの技能、領域を重視されるのかというご質問であります。幅広く5領域の技能について学ぶことが大事だと言われております。特に小学校においては、やはり聞くこと、話すこと（発表）や話すこと（やり取り）、この3つが特に高学年においては重要だと思っております。

ご質問の2つ目、短縮形に関してですが、小学校段階においては短縮形という言葉、文法用語といいますか、そういう形では教えておりません。音声で内容を理解することを大切にしております。中学校に入ってから、短縮形という形で教えております。以上でございます。

竹田委員 ということは、児童たちは I ' m というのは I a m の短縮だということは知らないで使っているということになるわけですか。あるいは、c a n n o t の短縮が c a n ' t だということを知らないで、使っているということですか。

明石教育改革推進課指導主事 そのように、この短縮形だと明示的というか、そのような形には教えていないケースが多いと思っております。

竹田委員 というのは、教科書を6者見ていると、非常に短縮形の多い教科書と、ほとんど短縮形を使っていない、かなり、レベルというのは変な言い方ですけども、違うような気がするのですね。見ていると、短縮形使っている教科書というのは、過去形が出たり、形容詞が出たり、助動詞が出たり、たくさん出てくるのですね。

一方、短縮形の少ない教科書を見てみると、あんまり難しいことは出てこないもので、大ざっぱに分けると非常にレベルが高い教科書と、ノーマルというか普通のレベルの教科書と、2つのグループに分けられるような気がするのですね。本市の児童たち、5年生、6年生、どの程度の英語の学習を要求するかと、非常に悩ましい問題だと思えますね。ハイレベルなものを使うと、ついていけない児童が出てくる可能性があるし、その辺り、非常に悩

んでいるところです。

小西委員 ご説明ありがとうございます。

私は、東京書籍と開隆堂とで悩んでいるので、その2者に絞って教えていただきたいのですが、開隆堂は東京書籍に比べて、6年生は30ページ数ほどページ数が多いのですが、両者比較して、出てくる単語数であったり、表現数というのは、やはり開隆堂のほうがかなり多いのでしょうか。

明石教育改革推進課指導主事 調査研究の中で、小西委員のご質問のように、開隆堂に関しては、ボリュームが多いなというようなことが挙がっております。

小西委員 そうすると、心配なのは、児童たちにとって負担が大きいと、結果、英語嫌いになってしまわないかというような心配があるのですが、それでも、その辺りで何かご意見あれば、教えていただければと思います。

明石教育改革推進課指導主事 開隆堂に関しては、ボリュームが多いと先ほど申しましたが、調査研究の中で、教科書の内容が多いという面もありますが、活動の種類も多く、目の前の児童に合った内容を教師が選択できる余地があるという、選択肢が多いといった面では、良いのではないかなというような調査の結果が出ております。

小西委員 もう1点教えていただきたいところがあるのですが、外国語というと、やはりデジタルコンテンツが非常に重要だというふうに思っております。また、外国語の指導についても先生によってかなり差が出てきてしまう部分かなと思っております。二次元コードの内容で、外国語の指導力が十分ではない先生にとって教えやすい、活用しやすいという特徴が、2者であれば、教えていただければと思います。

明石教育改革推進課指導主事 2者の二次元コードのコンテンツに関してですが、2者とも英語のアニメーションや映像がよくできておまして、外国語の指導が得意ではない先生にとっても教えやすいものかと考えております。

2者の違いといいますと、調査研究の報告の中では、まず、開隆堂に関しては単語の音声を調べたい場合に、単語の音声は1対1で対応して、少ないクリック数でその単語にたどり着けるというような特徴があるという調査結果が出ております。東京書籍に関しては、単語を調べたい場合に、カテゴリー別にとってもよくまとまっておりますが、カテゴリー別に分けられているため、たどり着くまでにクリックするのが多いというような報告を受けて

おります。以上です。

高津委員 今、英語を教えるのが苦手な先生にはという話が出たのですが、中学校は全てALTが授業を英語の先生と一緒にやっている。中学校は英語の専門の先生ですから、例えばALTがいなくても、ある程度できると思うのですが、小学校はALTの先生が入っているのですか。

明石教育改革推進課指導主事 本市の中学校において、全ての市立学校にALTを派遣しております。

5、6年生に関しては、年間35時間、3、4年生に関しては年間18時間入るようになっております。

高津委員 授業のやり方としては、T1、T2とやるとしたら、T1はメインの日本人の担任の先生ということですか。

明石教育改革推進課指導主事 はい。担任の先生がメインで指導をして、あくまでもALTはアシスタントという形で授業を運営しております。

高津委員 そうすると、英語が得意な先生と苦手な先生、この差は、ALTがアシスタントでいるとしても、差は出ないのでしょうか、子どもたちにとって。

明石教育改革推進課指導主事 英語が得意な先生と得意でない先生の差は、多少はあるかと思いますが、教科書に準じて行うことによって、ある程度の一定の指導の質は保たれていると思います。

高津委員 そうすると、ふだん研修の状況、例えば1年間で担任の先生が英語科の授業のときに、研修はどのくらい充てられているのでしょうか。

明石教育改革推進課指導主事 研修に関しましては、外国語主任研修会というのがありまして、5月に1回と8月に1回。あとは、秋には各小学校、区ごとのブロック研修というもので、各主任の先生が各小学校においてその内容を伝達していただくと。あとは、夏期の教育センターの研修で、それぞれ希望制の研修等があります。

大山委員 今の質問と関連するのですが、各者、デジタル教科書があると思います。やはり得意な先生と苦手な先生がいるということで、デジタル教科書を使ってこの各者を比べたとき、どのような感じでしょうか。

明石教育改革推進課指導主事 デジタル教科書ということで、コンテンツに関しましては、各者とも工夫されておりますが、コンテンツ数ということでは、光村図書がとても多いという調査結果が出ております。

鶴岡教育長 今、ALTの話が出たのですが、ALTを雇用し始めた

頃は、やはり英語が苦手な先生と得意な先生というのが歴然としていたかなと思います。しかし、若手は大学で英語を習って小学校の先生になってきますので大きな問題はなく、いわゆるベテランの先生方が英語を教えるのになかなか難しいなというのが本音だったというのが随分前までありました。しかし、昨今は、若手は若手で相変わらず堪能なのですけれども、ベテランの先生方も研修を随分行って、堪能とまでは言わないまでも、かなりしっかりした指導ができるようになっていっていますので、そこは大きな心配ないのかなと思います。ただ、若干差は確かに出るのかなと。

そこで、何が言いたいかというところ、ALTが入る授業とそうでない授業をどうするのかというところにポイントがあると思います。そうでない授業でこの教科書、二次元コードを使いながら授業を行っていくと思うのですけれども、そういった部分、二次元コードでは先ほど開隆堂と東京書籍の話を行いました。私も全部見たのですけれども、リスニングなので、しっかりした英語が聞ければいいのかなと思いつつ、開隆堂のほうはアニメーション的な会話なのです。一方で、東京書籍のほうは、人が出てくるのが多いのです。人がしゃべって、人に対して答えるというやり取りをするので、臨場感というか、そういったものはもしかすると、人と人とのほうがよりリアルなのかなと思うのですけれども、その点について何かご検討されたことありますか。

明石教育改革推進課指導主事 調査研究の中でもそのような議題が挙がったのですが、それぞれのよさがあるとは思いますが、今の児童たちの現状を見ると、やはりリアルなモデル、実際の人よりもアニメーションのほうが、児童には抵抗でない面もあるのではないかなというような意見がありました。

鶴岡教育長 でも、それぞれの良さがあるということですよ。分かりました。ありがとうございます。

鶴岡教育長 他にご意見等はありませんようですので、これより、令和6年度に本市立小学校において使用する「英語」の教科用図書を決めます。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「英語」の発行者は6者、「東京書籍」「開隆堂出版」「三省堂」「教育出版」「光村図書出版」及び「新興出版社啓林館」でございます。

この6者から投票により決定いたします。事務局より、投票用

紙を配付してください。

＜投票用紙の配付後、教育委員投票＞

＜事務局において、開票・集計＞

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について、ご報告します。

開隆堂出版、5票。開隆堂出版が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「英語」の教科用図書は、「開隆堂出版」と決定しました。

《道徳》

鶴岡教育長 最後に、小学校用教科用図書「道徳」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします。

八斗教育指導課長 それでは、小学校「道徳」について報告します。

51ページをご覧ください。

まず、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」についてですが、令和3年度千葉市学力状況調査における意識調査や学校生活の見取りより、児童の自己肯定感、自己有用感などの低さから人間関係に困難さを感じている児童が多い傾向が見られます。したがって、児童が自分との関わりとして道徳的価値を捉え、主体的に考え、議論できるといった特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えております。

次に、教科用図書を選定するための観点については紙面をご覧ください、各者の調査結果を具体的に説明します。

まず、東京書籍ですが、「学習指導要領への対応」の（2）については、4年42ページは、いじめ、生命、情報モラル等の現代的諸課題に取り組むユニットが全学年に設定され、自分にできることを考え、事後の活動につなげることができるよう、よく工夫されています。サイズはA B判で、全学年1冊です。

次に、教育出版ですが、「学習指導要領への対応」の（1）については、1年115ページのように、問題意識を持ち解決方法を考えたり、友達と話し合ったりして、より深く自己を見つめるための学習の流れが分かりやすく示され、よく工夫されています。サイズはA B判で、全学年1冊です。

次に、光村図書ですが、「学習指導要領への対応」の（1）については、6年15ページのように手引きがよく工夫されていて、

問題解決の視野を広げたり、道徳的価値について考えを深めたりすることができます。サイズはB5変型判で、全学年1冊です。

次に、日本文教出版ですが、「学習指導要領への対応」の(1)については、別冊「道徳ノート」は、児童が道徳性の成長や学びの深まりを実感できるような内容になっており、学級の実態に応じて自由に活用できるようによく工夫されています。

「内容」の(3)については、6年62ページのように、本市の地域の特色を生かした教材が適切に使われており、児童の学習経験の中から学びを深めることができます。サイズはA4判で、全学年1冊です。

次に、光文書院ですが、「学習指導要領への対応」の(1)については、1年6、7ページに見られるように、狙いに迫る問いかけと多面的、多角的に考える問いかけが提示され、体験的な活動との関連を図った教材が適切に配置されています。

「内容」の(4)については、6年94ページのように、現代的課題に向き合って学びを深めるために、発展的な情報や教材付随のコラムで様々な角度から考えられるよう、よく工夫されています。サイズはA4判で、全学年1冊です。

最後に、学研です。「学習指導要領への対応」の(1)については、4年38、39ページのように、特設ページの「心のパスポート」等で児童の考えを深めて多様な学びができるような題材を取り入れ、よく工夫されています。

「内容」の(3)については、6年50ページのように、二次元コードから学びを深めたり広げたりする情報を多く提供し、児童の興味関心を引き出すよう、よく工夫されています。サイズはA4判で、全学年1冊です。

以上で小学校道徳の報告を終わります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かありますか。

大山委員 ご説明ありがとうございました。

どこの者も大変道徳に力を入れているなと思ったのですが、実際に道徳の時間が週に何時間あるのか。それと、物語や伝記、感動するお話ばかりなのですか。全てのカリキュラムが消化できるものなのでしょうか。その辺りを教えてください。

多田教育指導課指導主事 年間を通して1年生は34時間、2年生から6年生までは35時間となっております。実際、学校は35週で終わってしまうのではなく、もう少し長く動いておりますので、消化できる、

消化し切れる量となっております。

高津委員 教科ですから、評価をしたいと思います。その評価のポイント、例えば英語とか数学であると、テストをやったり、あるいはノートを見たり、あと、発表をどのぐらいかに関心を見たりするのですが、道徳の場合、どのような観点で評価をするのでしょうか。

多田教育指導課指導主事 道徳の場合は、他教科と違って、ここまでできたらいわゆる合格という基準ではなくて、今の自分と比べて、道徳性の高まりと、こうなりたいという願いや希望というのを見取ることとしています。主には、授業で使うノートやワークシートの記述から、児童一人一人の成長を評価として記録しております。

高津委員 またも教科の話になっちゃうのですけれども、例えば、数学で方程式をやったら、それについて評価を5から1までつけます。前期に何かやったか分からないのですが、例えば、いじめのこと、優しさのことをやったとして、このことについて文章表現するのですよね。これはやった授業について書くのか、あるいは、全体の生活の中で文章で書くのか。

多田教育指導課指導主事 今おっしゃられたように、例えば、いじめのことについてなどのように、1つ1つについてどのような成長があったかとかではなく、後半おっしゃられたように、全体を通して児童がどう成長したかを、ご指摘あったように、文章の記述で評価しております。

小西委員 2点質問があります。東京書籍の二次元コードからデジタルワークシートが用意をされているのですけれども、他方では、日本文教出版は別冊ノートがついております。今後、1人1台端末となっているギガタブが日常的に使われるようになっていく中で、別冊ノートの効用というのはこれまでとあまり変わらないと考えてよろしいのでしょうか。

多田教育指導課指導主事 各者とも、いわゆるワークシートをデジタルで出せるようになったりはしているのですが、道徳ノートの利点としましては、まずプリントアウト、教師側の準備の時間が短縮されるということと、先ほど評価のお話をしましたが、個人個人の成長がノートという形で、ポートフォリオの形で記録として残せるというところに別冊ノートのメリットがあると感じているという報告を受けております。

小西委員 ありがとうございます。

もう1点お伺いしたいのが、本市では日本文教出版の別冊ノートを使い始めて数年ぐらいたつかと思うのですけれども、ど

うしてもノートだと書くことであるとか、あと、まとめることに追われてしまって、しっかり考えたり、議論をしたりというふうな時間が少なくなってしまうと、そういう心配があるのですけれども、そういった傾向がなかったかどうかというのを、現場の声として上がっているでしょうか。

多田教育指導課指導主事 専門調査員会の会議ではそのような点は挙がっておらず、逆に書くことによって自分の考えをいま一度整理できて、発表や全体共有につながると聞いております。

また、本市で現在使われている日本文教出版のノートは比較的自由的な体裁でして、書く項目や質問が決まっているわけではありませんので、それによって時間が少なくなっているというような状況は、今のところお聞きしておりません。

竹田委員 10年ほど前から、いじめが社会問題として非常に取り上げられて、道徳が見直されて、特別な教科として入ってきたのが5、6年前だと思いますけれども、道徳の教科書、いじめの観点から見ると、日本文教出版の教科書の6年の一番最後のほうに一覧というのが出ているのですけれども、この中でテーマというのがあるのですよね。これで見ると、いじめ対策というのがいっぱい出てくるのですよね。数えると、9教材ぐらいあるのですけれども、ほかの教科書はいじめに関する教材は2個とか3個、多くても4個ぐらいです。ただ、この教材を実際読んでみると、中にはむしろ友情とか信頼に分類されるようなものもありますけれども、これは日本文教出版だけが何か編集方針が違うということか、その辺りを教えていただけますか。

多田教育指導課指導主事 日本文教出版のほうは、他者が年1回程度のユニットを組んでいるのに対して、年3回いじめ防止ユニットというのを組んで編集しております。ご指摘があったように、中の内容項目を見ますと、間接的、直接的という表現を日本文教出版は使っているのですが、人との関わりという大きな枠で捉えて、それをユニットに組むことによっていじめ対策を取っておりますので、数で数えますと日本文教出版の教材数が多いのは、広い意味での人との関わりとしていじめを扱っていることだと報告を受けております。

高津委員 今、竹田委員が話をしましたように、大きな問題の1つとして扱われているいじめがある。また、いじめだけの題材を見たのですが、やはり日本文教出版は心のベンチとか、いわゆるコラム的なものをかなり挟んで、ページ数としては日本文教出版が多いと

思います。

それから、ノートについては、今、指導主事が言われたように、書くことによって自分の気持ちがまとめられるということで、特に低学年については同じような場面でやりますので、ノートは有効ではないかと私は思います。

鶴岡教育長 当たり前のことですけれども、心とか気持ちを強要するものではなく、道徳というのは思いを深めるというか、そういったところが大切だと思います。先ほど報告にもあったのですが、改めて確認をさせてください。やはり昨今の道徳は「考え、議論する道徳」というところにシフトをチェンジしていますので、その「考え、議論する道徳」という視点では、特徴的なものを3者ほど教えていただけたらと思います。いかがでしょうか。

多田教育指導課指導主事 専門調査委員会の報告では、まず、考え、議論するという捉えを主体的に自分との関わりで考え、多様な感じ方、考え方と出会い、交流すると捉えて研究調査を進めて参りました。その中で、やはり教材の力といいますか、優れた教材で行うということがまず1つ大事であること。そして、多様な指導法で授業を行うということが重要だと報告を受けております。指導法に関しては、教科書の編集とは直接は関わらないのですが、この2点を重要だと考え、報告では、日本文教出版、学研、光文書院の名前が報告をされております。

鶴岡教育長 ありがとうございます。

これは意見になるのですけれども、道徳が教科化になったことで、道徳を毎週しっかり行うというところで、教職員の立場からも教えやすい、児童たちの立場からも学びやすいというところで、教科書の選び方というのもあったと思います。

でも、今申し上げたように、「考え、議論する道徳」というふうにシフトチェンジがされて、その部分が大事になってきますので、今回もそうなのですが、今後の教科書の選び方についてはその部分をしっかり深められるような教科書というのを選定することが大事になってくるかなと思います。これは意見です。

他にご意見、等ありませんようですので、これより、令和6年度に本市立小学校において使用する「道徳」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。

小学校用教科用図書「道徳」の発行者は6者、「東京書籍」「教

育出版」「光村図書出版」「日本文教出版」「光文書院」及び「G a k k e n」です。

この6者から投票により決定します。事務局より、投票用紙を配付してください。

<投票用紙の配付後、教育委員投票>

<事務局において、開票・集計>

鶴岡教育長 ただいまの投票結果について、ご報告します。

日本文教出版、5票。日本文教出版が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、令和6年度に本市立小学校において使用する「道徳」の教科用図書は、「日本文教出版」と決定しました。

《総括》

鶴岡教育長 以上で、議案第36号に係る「令和6年度使用千葉市立小学校用教科書の採択について」採択が終了しました。

確認をします。教科書名と出版社名を申し上げます。

国語(国語)	「光村図書出版」
書写(小学書写)	「教育出版」
社会(新編 新しい社会)	「東京書籍」
地図(楽しく学ぶ小学生の地図帳)	「帝国書院」
算数(わくわく算数)	「新興出版社啓林館」
理科(新版 たのしい理科)	「大日本図書」
生活(生活)	「教育出版」
音楽(小学生の音楽)	「教育芸術社」
図画工作(図画工作)	「日本文教出版」
家庭(わたしたちの家庭科)	「開隆堂出版」
保健(新編 新しい保健)	「東京書籍」
英語(Junior Sunshine)	「開隆堂出版」
道徳(小学道徳 生きる力)	「日本文教出版」

となりました。以上、よろしいでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 それでは、ただ今のとおり決定をします。

鶴岡教育長 以上で、本日の議事日程記載の案件に係る審議が終了しました。最後に、事務局から何かありますか。

八斗教育指導課長 採択結果については、本日中に市ホームページで公開する予定であることをお伝えします。

鶴岡教育長 以上で、令和5年千葉市教育委員会会議第2回臨時会の日程は、全て終了しました。閉会とします。

9 その他

第8回定例会は、8月28日 月曜日 午後3時00分からとした。

10 閉会

鶴岡教育長より閉会を宣言